泉大津市文化財調査報告40

泉大津市埋蔵文化財発掘調査概報24

２００６・３

泉大津市教育委員会

泉大津市文化財調査報告40

泉大津市埋蔵文化財発掘調査概報24

２００６・３

泉大津市教育委員会

例　　言

1．本調査概報は、泉大津市教育委員会が市内に所在する埋蔵文化財包蔵地において、開発行為に先立って実施した発掘調査報告である。

2．本調査は、国庫補助事業（補助対象経費2,000,000円、国庫補助率50%、市負担率50%）として泉大津市が計画・実施したものである。

3．本調査は下記の構成で実施した。

調査主体者	泉大津市教育委員会教育長　楠畑　正史 （平成17年11月11日まで） 教育長　中井　　譲 （平成17年11月12日から）
事　務　局	泉大津市教育委員会事務局　生涯学習課
担　当　者	坂口　昌男（平成17年９月30日まで）
〃	虎間　麻実
〃	村田　文幸
外業調査員	松本　堅吾、岡田　竜彦
外業調査補助員	豊島　享志、小川　隆英
内業調査員	坪田　　恵
内業調査補助員	野田　由恵

4．本事業は平成17年度事業として、平成17年４月１日に着手して、平成18年３月31日に完了した。

5．本書の執筆、編集は虎間が行った。

目　　次

第１章　泉大津市と埋蔵文化財調査の状況……1
　１．泉大津市の位置と環境……1
　２．埋蔵文化財調査の現状……3
第２章　発掘調査成果……5
　１．池上曽根遺跡……5
　２．豊中遺跡、七ノ坪遺跡……32
　３．池浦遺跡、穴師遺跡……37
　４．虫取遺跡、板原遺跡……40
発掘調査抄録……52

挿　　表

表１　発掘調査一覧……4
表２　2005-03地点出土遺物観察表……44

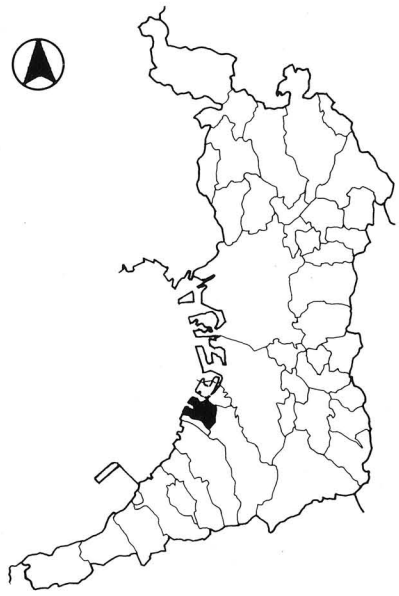
挿　　図

第１図　泉大津市の位置……1
第２図　市内遠望写真……1
第３図　遺跡分布図……2
第４図　遺跡別工事内容内訳……3
第５図　池上曽根遺跡　調査区位置図（１：10,000）……5
第６図　2005-03地点西壁断面図……7
第７図　2005-03地点第１遺構面平面図……8
第８図　2005-03地点第２遺構面平面図……9
第９図　2005-03地点サブトレンチ断面図……10
第10図　池上曽根遺跡主要遺構配置図……10
第11図　2005-03地点　第1、第2環濠断面写真……11
第12図　2005-03地点　第2環濠断面、第1遺構面写真……12
第13図　2005-03地点　第2遺構面、管玉出土写真……13
第14図　2005-03地点　サブトレンチ断面図……14
第15図　2005-03地点　環濠検出、第2遺構面遺構掘削写真……15
第16図　2005-03地点　環濠検出写真（北から）……16
第17図　2005-03地点　環濠検出写真（南から）……17
第18図　2005-03地点　出土遺物実測図（１）……18
第19図　2005-03地点　出土遺物実測図（２）……19
第20図　2005-03地点　出土遺物実測図（３）……20
第21図　2005-03地点　出土遺物実測図（４）……21
第22図　2005-03地点　出土遺物実測図（５）……22

第23図　2005-03地点　出土遺物実測図（６）……23
第24図　2005-03地点　出土遺物実測図（７）……24
第25図　2005-03地点　出土遺物実測図（８）……25
第26図　2005-03地点　出土遺物写真（１）……26
第27図　2005-03地点　出土遺物写真（２）……27
第28図　2005-03地点　出土遺物写真（３）……28
第29図　2005-03地点　出土遺物写真（４）……29
第30図　2005-03地点　出土遺物写真（５）……30
第31図　2005-04地点西壁断面図 ……31
第32図　2005-04地点トレンチ全景、西壁断面写真 ……31
第33図　2005-10地点断面図 ……31
第34図　2005-10地点トレンチ写真 ……32
第35図　豊中遺跡、七ノ坪遺跡　調査区位置図（１：10,000） ……32
第36図　2005-06地点断面図 ……33
第37図　2005-06地点トレンチ写真 ……33
第38図　2005-12地点断面図 ……34
第39図　2005-12地点トレンチ1遺構平面図 ……34
第40図　2005-12地点出土遺物実測図 ……34
第41図　2005-12地点出土遺物写真 ……34
第42図　2005-12地点トレンチ写真 ……35
第43図　2005-02地点北壁断面図 ……36
第44図　2005-02地点トレンチ全景、トレンチ北壁写真 ……36
第45図　池浦遺跡、穴師遺跡　調査区位置図（１：10,000） ……37
第46図　2005-07地点南壁断面図 ……38
第47図　2005-07地点トレンチ写真 ……38
第48図　2005-07地点出土遺物実測図 ……38
第49図　2005-07地点出土遺物写真 ……38
第50図　2005-05地点断面図 ……39
第51図　2005-05地点トレンチ写真 ……39
第52図　虫取遺跡、板原遺跡　調査区位置図（１：10,000） ……40
第53図　2005-01地点南壁断面図 ……41
第54図　2005-01地点トレンチ全景、南壁断面写真 ……41
第55図　2005-08地点東壁断面図 ……41
第56図　2005-08地点トレンチ全景、東壁断面写真 ……42
第57図　2005-11地点西壁断面図 ……42
第58図　2005-11地点トレンチ全景、西壁断面写真 ……42
第59図　2005-09地点トレンチ断面図 ……43
第60図　2005-09地点トレンチ全景、北壁断面写真 ……43

第１章　泉大津市と埋蔵文化財調査の状況

１．泉大津市の位置と環境



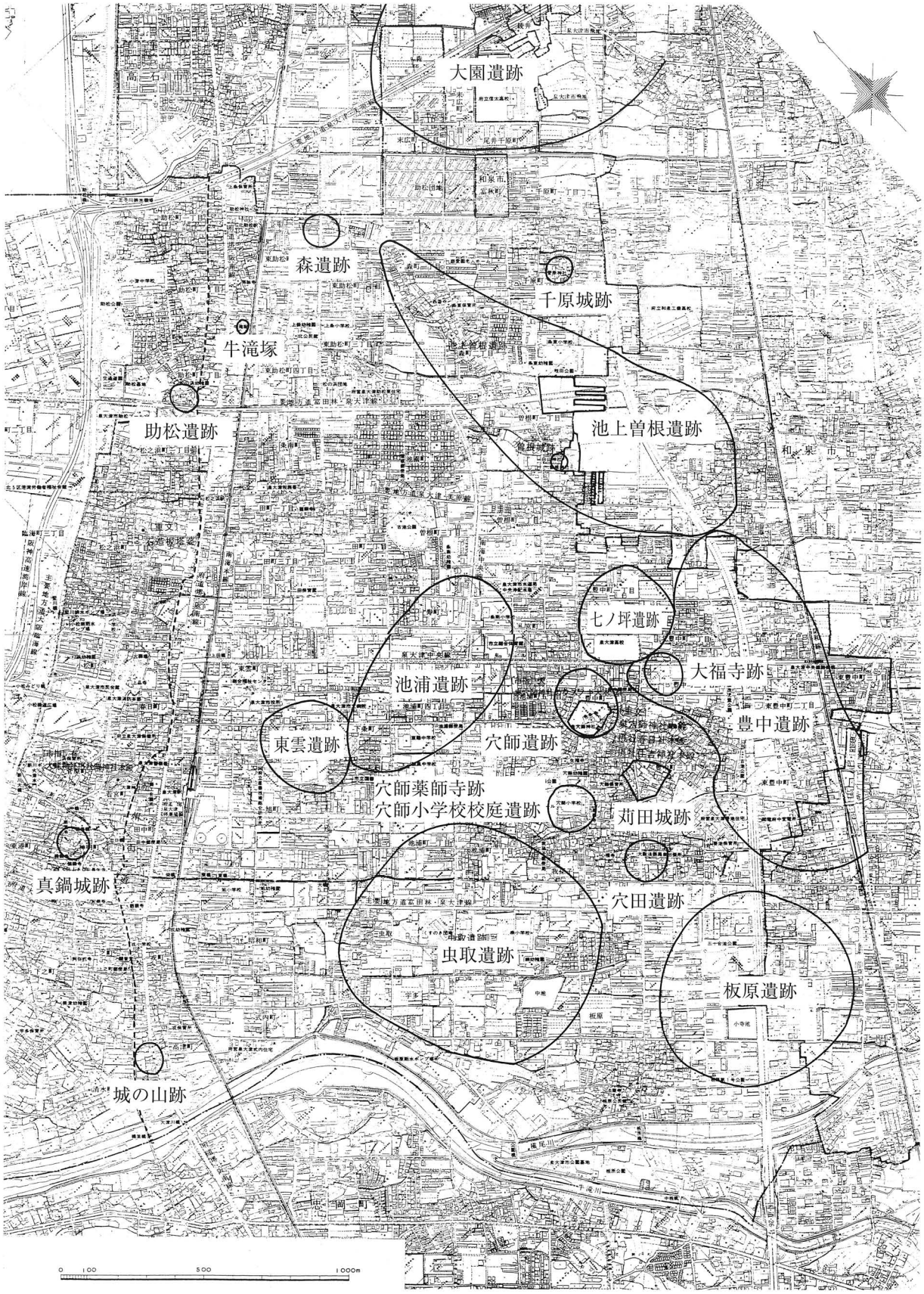
第１図　泉大津市の位置

泉大津市は大阪府南部の泉州地域に属する。泉州地域東部には、大阪湾に沿って東西に和泉山脈が連なる。その山脈を源として幾多の河川が北に走行し、大阪湾に注ぐ。これらの河川はそれぞれ開析谷、河岸段丘を形成し、その両側には丘陵地形が南北方向に発達している。その丘陵より北側は平坦で狭小な沖積地が形成されているが、泉大津市はこの沖積地上に立地しており、市域の標高は20m未満である。

泉大津市は面積12.53㎢、人口78,147人である（平成18年１月１日現在）。

昭和40年頃から開発が進み、現在は市域全域が市街地化されている。市域は、大阪湾に面した臨海部の工業地域、南海本線から阪和線にかけての住居地域と商工業地域が混在する地域、国道26号線周辺の商業地域に大きく分けることができる。住居地域には、助松の紀州街道沿いと泉穴師神社周辺にそれぞれ風致地区を設けている。近年、臨海部の高層住宅や繊維工場跡地への分譲住宅の建設が進み、市の景観の変化は著しい。いわゆるバブル景気崩壊以後、大規模開発は下火になっているものの、古い民家の取り壊しや木造個人住宅の鉄筋造への立替えなどが進み、町並みにも大きな変化が見られる。

第２図　市内遠望写真（左；池上曽根遺跡方面、右；豊中遺跡方面）


大園遺跡
森遺跡
千原城跡
牛滝塚
池上曽根遺跡
助松遺跡
池上曽根遺跡
七ノ坪遺跡
大福寺跡
池浦遺跡
豊中遺跡
東雲遺跡
穴師遺跡
穴師薬師寺跡
穴師小学校校庭遺跡
苅田城跡
真鍋城跡
穴田遺跡
虫取遺跡
板原遺跡
城の山跡
0 100 500 1000m

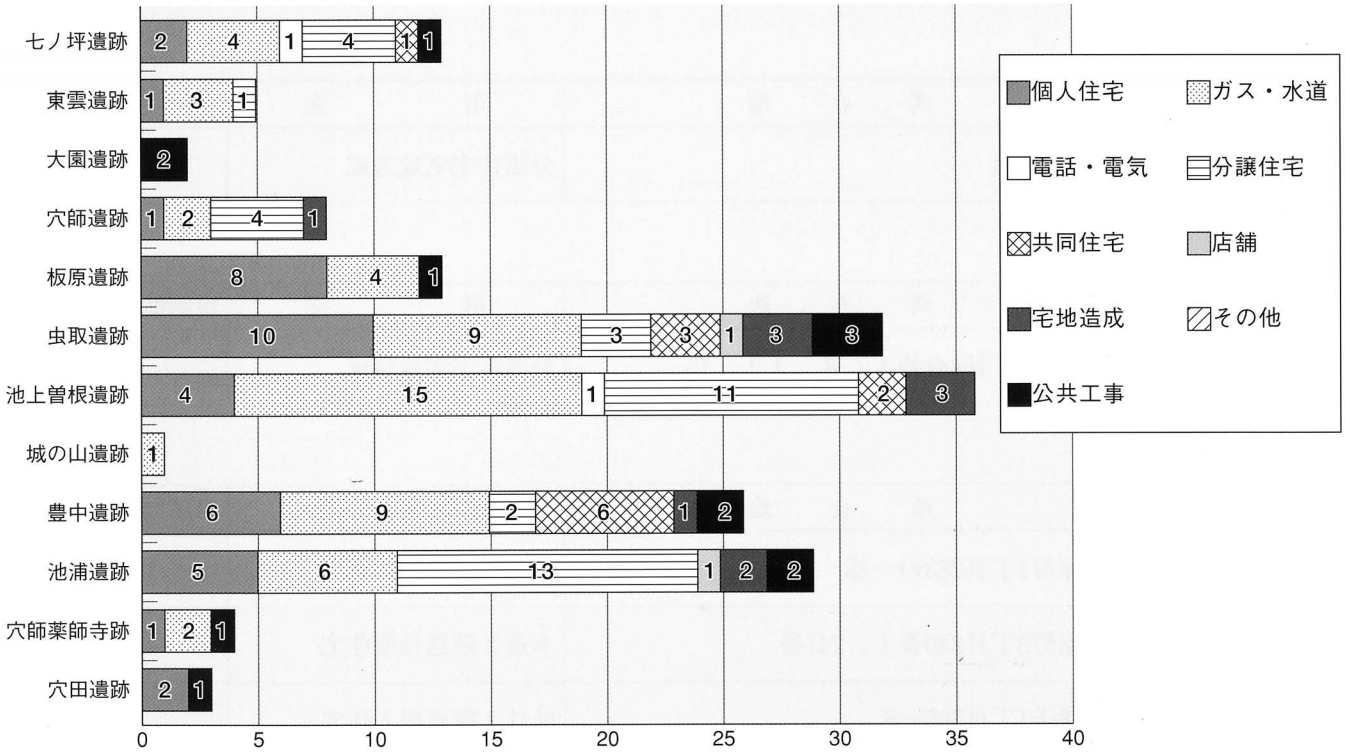
第３図　遺跡分布図

2．埋蔵文化財調査の現状

本概報は、平成17年１月～12月までに埋蔵文化財発掘届出の提出があり、そのうち国庫補助事業により発掘調査を実施したものを掲載対象とする。当該期間内の埋蔵文化財届出件数は172件で、発掘調査件数12件を国庫補助事業で行った。

第４図は、遺跡別工事件数の内訳である。遺跡別に届出件数をみると、池上曽根遺跡、虫取遺跡、池浦遺跡、豊中遺跡の順で多い。総届出件数に占める工事内容で最も多いのは、ガス・水道で約３割、次いで個人住宅と分譲住宅がそれぞれ約２割を占める。分譲住宅が個人住宅と同数になることは過去に無く、工事種別の特徴として今後もこの傾向は続くと思われる。

本概報で報告する調査は、池上曽根遺跡３件、豊中遺跡２件、七ノ坪遺跡１件、池浦遺跡１件、穴師遺跡１件、虫取遺跡３件、板原遺跡１件の合計12件である。いずれも建物基礎掘削深度が遺構面を損壊する可能性があるため、着工前の確認調査を行ったものである。主だった成果としては、史跡池上曽根遺跡の南に隣接する地点（調査番号2005-03）で環濠の一部、弥生時代の竪穴住居、管玉などを、豊中遺跡（調査番号2005-12）から古墳時代の柱穴を検出した。



第４図　遺跡別工事内容内訳

表１　発掘調査一覧表

○池上曽根遺跡

調査番号	所　在　地	用　途	申請面積(㎡)
2005－03	豊中894、895	分譲住宅宅地造成	1195.83
2005－04	曽根町２丁目12－５	木造２階建個人住宅	113.58
2005－10	千原町２丁目５－１、６－１、245－１、－２、248－１、249、250、256－１、389－１、389－２	鉄骨平屋建店舗	4,404.81

○豊中遺跡

調査番号	所　在　地	用　途	申請面積(㎡)
2005－06	北豊中町2丁目986－9の一部	分譲住宅宅地造成	421.38
2005－12	東豊中町１丁目967－10	鉄骨２階建共同住宅	367.97

○七ノ坪遺跡

調査番号	所　在　地	用　途	申請面積(㎡)
2005－02	北豊中町2丁目517－1	軽量鉄骨２階建長屋建住宅	1,201.62

○池浦遺跡

調査番号	所　在　地	用　途	申請面積(㎡)
2005－07	寿町83－1	分譲住宅宅地造成	2,238.95

○穴師遺跡

調査番号	所　在　地	用　途	申請面積(㎡)
2005－05	池浦町5丁目441番１、８、１１、15	分譲住宅宅地造成	1,037.3

○虫取遺跡

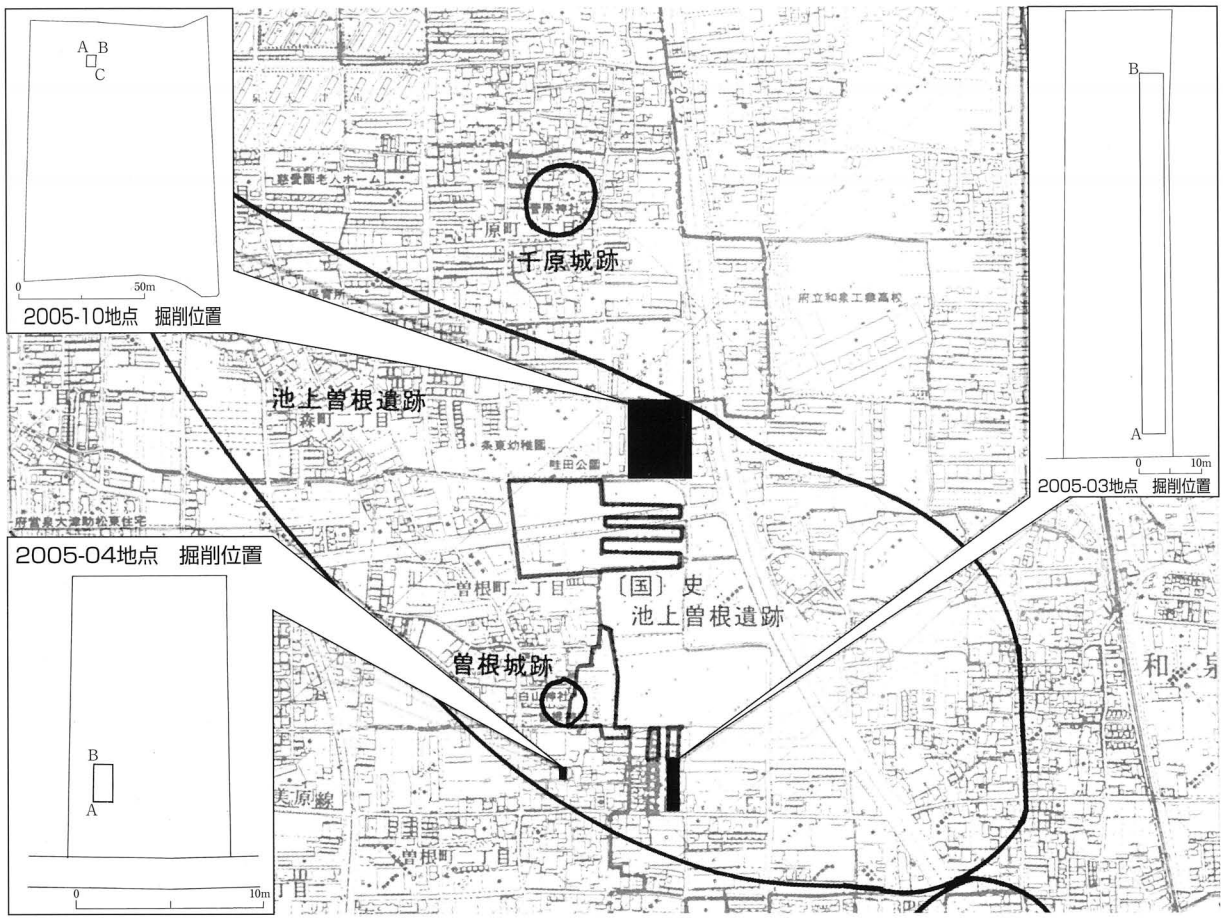
調査番号	所　在　地	用　途	申請面積(㎡)
2005－01	板原町1丁目283の一部	分譲住宅宅地造成	1,187.11
2005－08	板原町3丁目240番１、241番	木造２階建長屋住宅	1,202.24
2005－11	我孫子1丁目505－6	鉄骨３階建個人住宅	105.17

○板原遺跡

調査番号	所　在　地	用　途	申請面積(㎡)
2005－09	板原町2丁目1009－4	鉄骨３階建個人住宅	122.82

第２章　発掘調査成果

１．池上曽根遺跡



第５図　池上曽根遺跡　調査区位置図（１:10,000）

池上曽根遺跡は本市曽根町と和泉市池上町に広がり、遺跡範囲約105ヘクタールのうち、約11.5ヘクタールが史跡に指定され、3.5ヘクタールが第一期整備を経て史跡公園となっている。本市域における遺跡の範囲は、曽根神社以西から森町、千原町の一部を含み、南北に広がりを持つ。史跡指定地以外の地域は、旧村落と昭和40年代以降の開発部分が混在しており、小区画の開発が多く大規模な調査は行われていない。そのため、史跡地中心部の構造に比べ、周辺部は不明な点が多い。今年度は宅地造成工事、木造２階建個人住宅に伴う浄化槽工事、鉄骨平屋造店舗に伴う防火水槽の計３件の確認調査を実施した。

２００５－０３地点（豊中894、895　平成17年5月24日～6月13日調査）

調査経緯と経過

当該地は史跡池上曽根遺跡の南隣に接する。宅地造成工事が予定されたため、工事に先立って確認調査を実施したが、平成５年度の史跡指定地内の発掘調査により（93－１区）環濠の存在が予想されたため、環濠の位置確認を調査目的とする国庫補助事業とした。

調査区は道路敷設予定となる南北方向に幅４m長さ57.6mと設定し、平成17年５月24日から重機で

掘削を開始した。後述する基本層序の第Ⅰ層（表土）、第Ⅱ層（灰色土）まで機械掘削を行い、西側に側溝を設定した。5月26日に機械掘削が完了し、以下の層は人力掘削で遺構検出を行った。調査当初、調査区南端の側溝断面で溝状の落ち込みを環濠と想定したが、側溝内および周辺で土器は全く認められず、確証は得られなかった。引き続き、調査区北側にむかって精査していくと青灰色のシルト及び灰色シルトが広範囲に広がり、その北側に第Ⅳ層（灰褐色土）が認められ、調査区北端から約6m付近で一条の溝状遺構を検出した。溝内で遺物は認められなかったが、層位より弥生時代末期から古墳時代初頭と考えられた。30日に調査区北側の側溝を掘り下げ、第Ⅴ層（黒色土）の落ち込みを3ケ所で確認し、出土遺物の量、土層の状況からこれらを第1、第2環濠と判断した。31日より平面で第Ⅴ層（黒色土）上面まで掘削を行い、竪穴住居の周壁溝を検出したが、遺構は上層の溝状遺構北側でしか認められない（第1遺構面）。6月7日、更にこの下層でも遺構が確認できたため、第Ⅴ層（黒色土）の掘削を行った結果、柱穴、竪穴住居の周壁溝が確認できた（第2遺構面）。両遺構面とも遺構掘削は一部に止め、平面図作成及び写真撮影を行った。8日、西側側溝で環濠断面が確認できたが、第2遺構面上での検出は困難であったため、東側にサブトレンチを設定し環濠を断面で確認することとした。サブトレンチの断面観察の結果、西側側溝の環濠断面とそれぞれ対応する落ち込みが確認できた。9、10日、サブトレンチの断面図作成及び写真撮影を行った。11日、13日に埋め戻しを行うとともに、フェンスを撤去し後片付けを完了した。工事は環濠の上部40～60cmで行われる予定である。

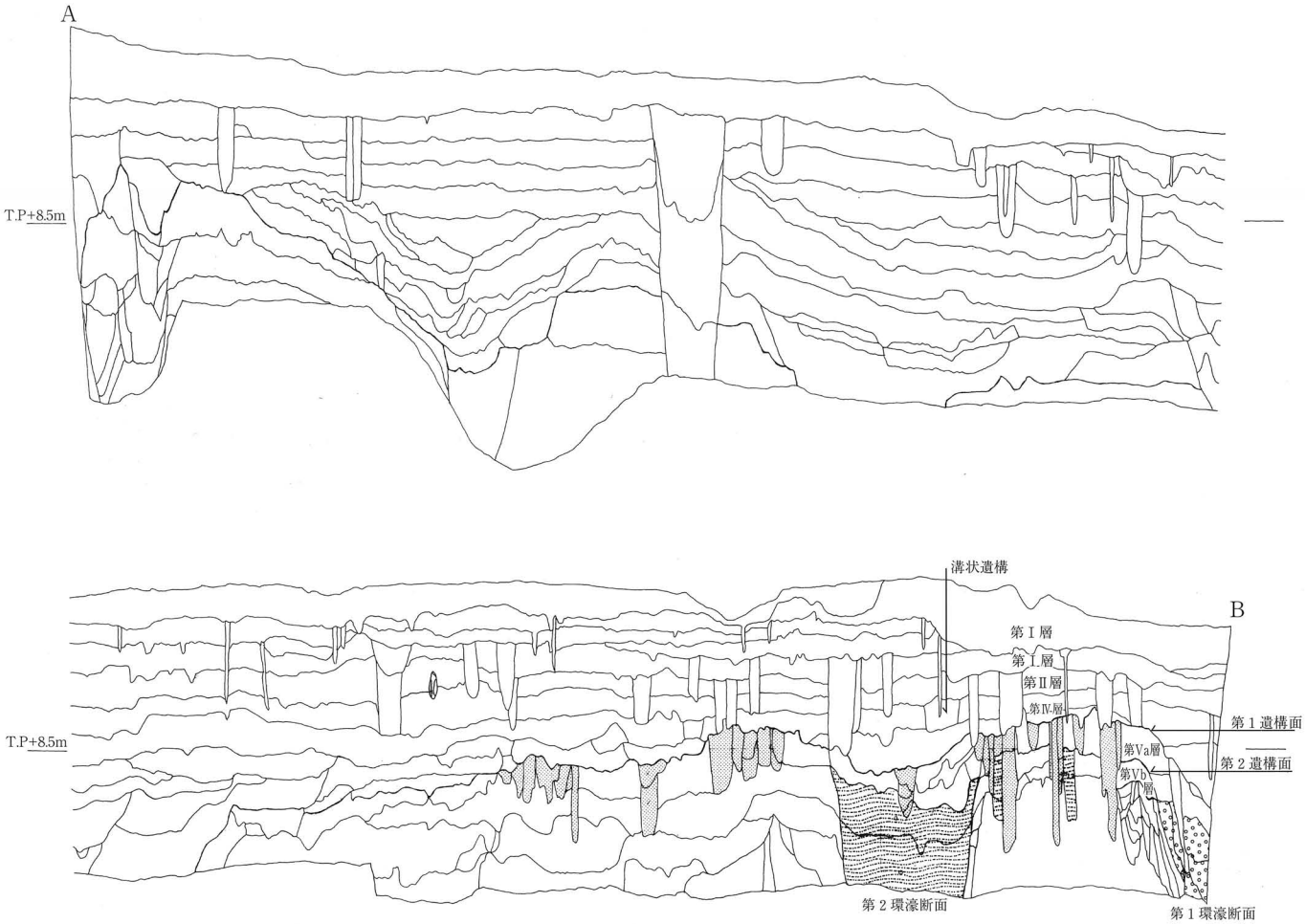
基本層序（第6図）

基本層序は『史跡池上曽根遺跡保存整備事業報告書　第1分冊』（和泉市教育委員会　2000年）に準拠する（ローマ数字で表す層とそれに続く（　）内の土色は同書による）。調査区の北側の環濠検出付近を基本層序とした。第Ⅰ層（表土層）：耕作土、床土等で現況の地表層。褐灰砂質土、にぶい黄橙色粘質土で約40cmを測る。調査区全域で認められる。第Ⅱ層（灰色土）：中世以降の耕作土。にぶい黄褐色粘質土、褐色粘質土で約30cmを測る。調査区のほぼ全域で認められる。瓦器検出。第Ⅲ層（黒褐色土）：中世以前の包含層で6世紀後半～8世紀にかけての須恵器を包含する層とされているが、今回、明確に該当する層は未確定である。第Ⅳ層（灰褐色土）：弥生時代末期から古墳時代初頭にかけての土器を包含する層で、黄灰粘質土、オリーブ褐色粘質土、10～30cmを測る。一条の溝状遺構を検出。第Ⅴ層（黒色土）：黒褐色粘質土で弥生時代の包含層。層厚は平均して30cm程度である。前掲書によると第Ⅴ層は三層に細分され（上位からa～c層）、それぞれが上位から弥生時代後期、中期中葉から中期末、前期後葉から中期末、前期後半から中期前半に比定されている。今回、Va層は褐灰色土、Vb層は黒色土層となり、a層上面、b層上面で遺構面を確認し、それぞれ第1遺構面、第2遺構面とした。

遺構・遺物

弥生時代末期から古墳時代初頭の第Ⅳ層から切り込む溝状の遺構を確認した。調査区北端から約6m付近であった。調査区内の全長は2m、東で幅50cm、西で30cmと西方向に狭くなっている。西側側溝断面による深さは15cm。遺物は認められない。

黒色土上面（Va層）において検出した第一遺構面は、ピット、不定形土坑、竪穴住居などがあっ

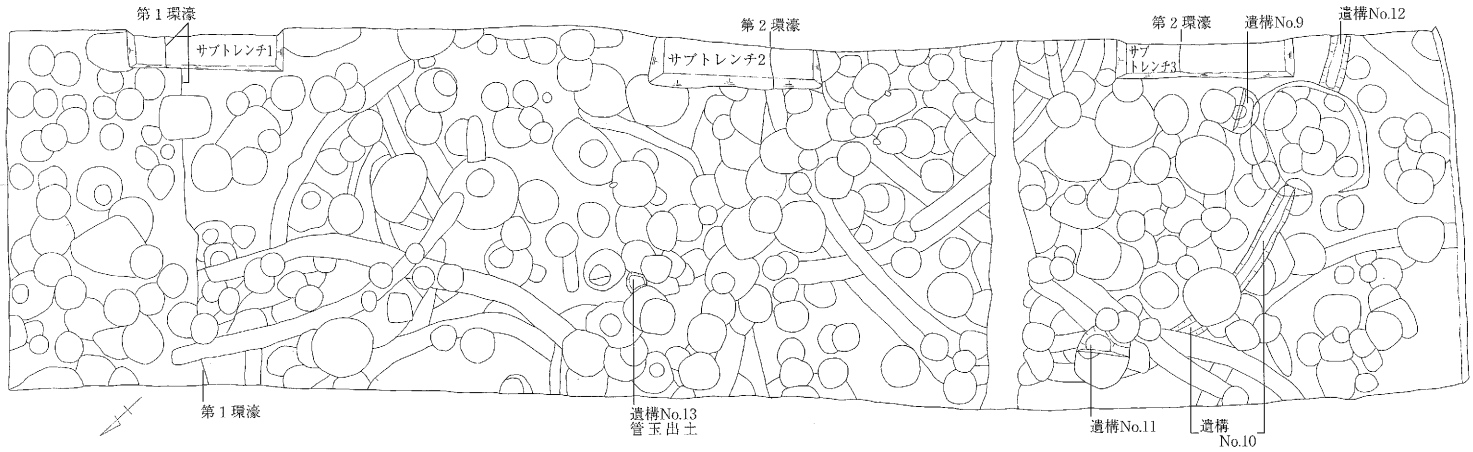


第６図　200-3地点　西壁断面図（縦 1/40、横 1/200）

たが、遺構は調査区北端から６m付近までに集中している。これらの遺構を掘削すると、その底面から前段階の遺構が検出され、下層遺構の存在が想定されたためVa層を10～15cm人力掘削したところ、調査区約11mまでの範囲で柱穴、竪穴住居などのおびただしい数の遺構を確認した。この第２遺構面では、柱穴はその直径により15cm、30cm、50cmの３種類に分けられるが、総数は優に300を越え、また複雑な重複のため掘削はごく一部に止めた。遺物より両遺構面とも弥生時代後期～中期に比定できる。

出土した遺物はコンテナ25箱で弥生時代の遺物が最も多い。180点を図示する（第18～25図）。第18、19図は、機械掘削及びあげ土の土器で瓦器、須恵器を含む。33、53は胎土に角閃石を含む。第20～22図の100までは側溝の土器で、側溝出土地点は、調査区北端から11mまでの間である。99は、蛸壺底部を転用したもので破断面の一部を平滑に仕上げている。第22図101～第24図144は、Va層からの出土である。第23図139は胎土に角閃石を含む。底径は14cmの脚部であるが、内面に著しくススが付着していることから、蓋に転用されたと思われる。第24図142は99と同様に蛸壺底部である。図24の145、146は第１遺構面の遺構から、147～150は第２遺構面の遺構からの検出である。150は、胎土に角閃石を含む。152は体部外面に２条のヘラ描き沈線が巡る。156～160はサブトレンチ内からの出土である。第25図はVb層からの出土である。162、178は角閃石を含む。179は直径15cmの柱穴（遺構No.13）から検出した管玉で、全長0.9cm、幅0.5cmを測る。内外面ともに、オリーブ灰色で、縦に半裁し、孔の直径は0.2cm程度と思われる。穿孔は両方向からされている。

第７図　第１遺構面平面図（1/100）（数字は遺構番号を表す）



第８図　200-3地点　第２遺構面平面図（1/60）

環濠

西側側溝の断面観察において、調査区北端、及びそこから5.5m、9.5m付近の３ヵ所で溝状の落ち込みが認められたため側溝下層の掘削を行った。調査区北端は、第1環濠の北側と思われたが、遺構の大部分は調査区外で全容は明らかでない。環濠は第２遺構面より下層でT.P.=8.2mを測る。調査区内での幅は1.3mである。一方、後の2ヶ所は、幅3.6m、深さ0.6mで第２環濠と思われた。環濠北側は他の遺構に切られて明らかでないが、南側は第２遺構面からの切り込みでT.P.=8.4mを測る。更に、調査区の東に３ヶ所のサブトレンチを設定し、サブトレンチ１で北側に落ち込む褐色粘土層を確認し、第１環濠に繋がるものと判断した。また、サブトレンチ２で南側に落ち込む黒褐色粘土層、サブトレンチ３でも北側に落ち込む黒褐色粘土層を確認し、第２環濠に繋がると判断した。

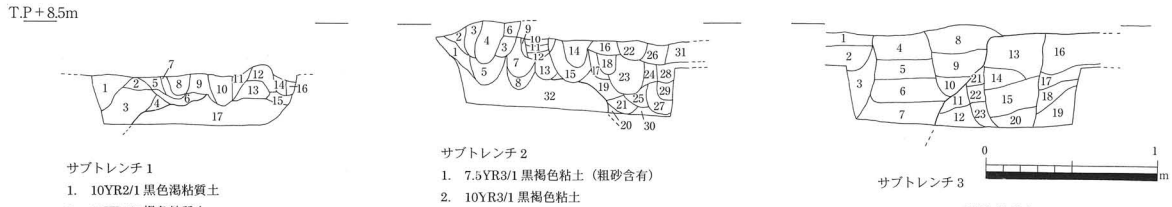
これらの結果、環濠は調査区にほぼ直交し、環濠の遺構構築面に差があることが断面の切り込み面から確認された。

まとめ

調査面積は約230㎡であったが環濠の位置確認を第一義とした結果、遺構・遺物の検出は調査区の北側、つまり環濠周辺に限られることとなった。史跡指定地内の既存調査から、黒色土中に３層以上の遺構面の形成が確認されており、今回の２面の遺構面もこれらに該当する。遺物包含層として認識されていた黒色土がおびただしい数の遺構覆土の集合によって形成されたものであることは、史跡指定地外でも同様の結果として確認された。また、環濠埋没後にその周辺も含め多くの住居が営まれていたことも同様であった。

第１環濠の一部と第２環濠を断面と平面で確認したが、掘削は行わなかった。両環濠とも調査区にほぼ直交するもので、今回検出した環濠を遺跡の主要遺構図に配置すると、93－１区で検出した環濠から想定される位置よりもかなり大型建物に近く、また、93－１区で検出した第２環濠の幅4.5～５ｍに比べて約１ｍ狭い。第２環濠の南側は、青色のシルトが広範囲に広がっており遺構・土器はほとんど確認できなかった。更に、南の調査区外に環濠が存在しないとも言い切れないが、検出面、土層等から判断して第１、第２環濠とすることが妥当と思われる。

上記結果は、史跡指定地内の既存調査結果を再確認することとなったが、史跡指定地外の西側に更に環濠が延伸すること、環濠の外側には居住空間はほとんど認められないことは、新たな知見であるといえよう。



サブトレンチ1

1. 10YR2/1 黒色褐粘質土
2. 10YR4/4 褐色粘質土
3. 10YR2/2 黒褐色粘土
4. 10YR3/3 暗褐色粘土（若干砂混じり）
5. 7.5YR3/2 黒褐色粘土
6. 10YR3/3 黒褐色粘土
7. 7.5YR3/2 黒褐色粘土
8. 10YR3/2 黒褐色粘土
9. 7.5YR3/3 暗褐色粘土
10. 10YR3/4 暗褐色粘土
11. 7.5YR3/2 黒褐色粘土
12. 7.5YR3/3 暗褐色粘土
13. 10YR3/1 黒褐色粘土
14. 10YR3/4 暗褐色粘土
15. 10YR4/2 灰黄褐色粘土
16. 10YR3/2 黒褐色粘土
17. 10YR4/4 褐色粘土（地山、第1環濠の肩）

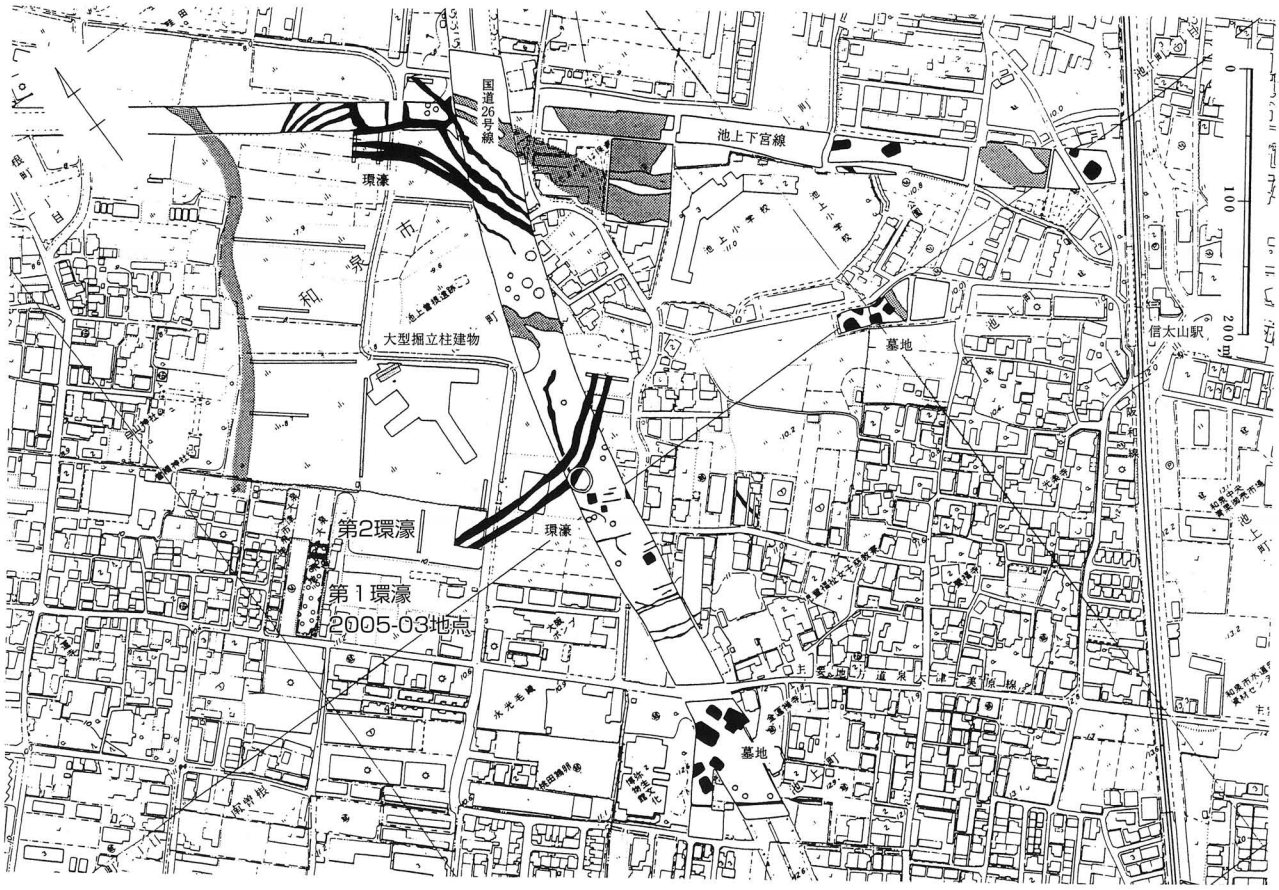
サブトレンチ2

1. 7.5YR3/1 黒褐色粘土（粗砂含有）
2. 10YR3/1 黒褐色粘土
3. 7.5YR3/2 黒褐色粘土（粗砂含有）
4. 7.5YR3/1 黒褐色粘土
5. 10YR2/1 黒色粘質土
6. 10YR3/2 黒褐色粘土（少量微砂含有）
7. 10YR3/1 黒褐色粘土
8. 10YR3/2 黒褐色粘土（粗砂含有）
9. 7.5YR3/2 黒褐色粘土
10. 10YR4/6 褐色土
11. 7.5YR3/1 黒褐色粘質土
12. 10YR3/2 黒褐色粘質土
13. 7.5YR3/2 黒褐色粘質土
14. 10YR3/2 黒褐色粘質土
15. 10YR3/1 黒褐色粘質土
16. 7.5YR3/2 黒褐色粘質土（粗砂含有）
17. 10YR3/1 黒褐色粘質土
18. 10YR2/1 黒色粘質土
19. 7.5YR2/1 黒色粘質土
20. 7.5YR1.7/1 黒色粘質土
21. 7.5YR3/1 黒褐色粘質土（粗砂含有）
22. 7.5YR3/2 黒褐色粘質土（粗砂含有）
23. 7.5YR3/1 黒褐色粘質土
24. 10YR2/1 黒色粘質土
25. 7.5YR2/1 黒色粘質土
26. 7.5YR2/2 黒褐色粘質土（粗砂含有）
27. 10YR2/1 黒色粘質土
28. 7.5YR2/1 黒色粘質土
29. 10YR2/1 黒色粘質土
30. 10YR2/1 黒色粘質土（細砂含有）
31. 7.5YR2/1 黒色粘質土
32. 10YR2/3 黒褐色粘土

サブトレンチ3

1. 10YR3/3 暗褐色粘質土
2. 10YR3/1 黒褐色粘質土
3. 10YR2/1 黒色粘質土
4. 7.5YR3/2 黒褐色粘質土
5. 7.5YR2/1 黒色粘質土
6. 7.5YR1.7/1 黒色粘質土
7. 10YR2/1 黒色粘質土
8. 7.5YR3/3 暗褐色粘質土
9. 10YR3/2 黒褐色粘質土
10. 10YR2/1 黒色粘質土（細砂含有）
11. 10YR3/1 黒褐色粘質土
12. 10YR4/3 にぶい黄褐色砂
13. 7.5YR3/2 黒褐色粘質土
14. 10YR2/1 黒色粘質土
15. 10YR2/2 黒褐色粘質土
16. 7.5YR2/1 黒色粘質土
17. 10YR2/1 黒色粘質土
18. 7.5YR3/1 黒褐色粘土
19. 10YR2/1 黒色粘土（微砂含有）
20. 10YR3/1 黒褐色粘土
21. 10YR3/1 黒褐色粘質土
22. 10YR3/2 黒褐色粘質土
23. 10YR2/1 黒色粘土

第9図　2005-03地点　サブトレンチ断面図（1/40）



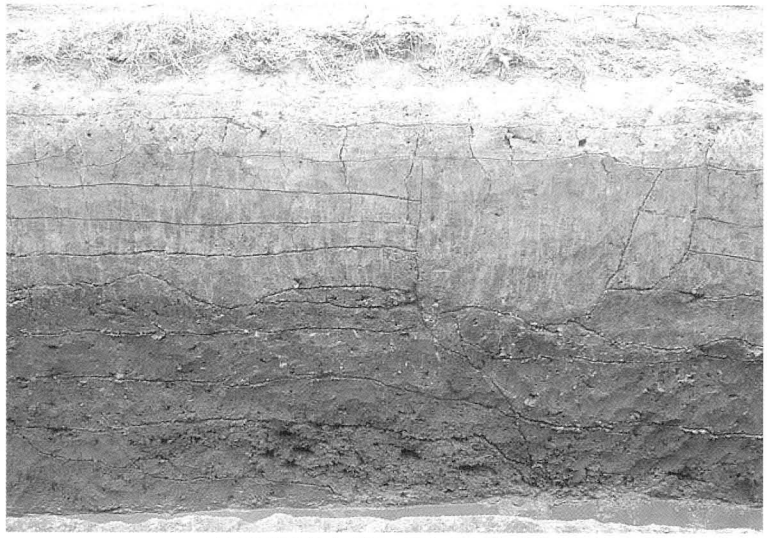
第10図　池上曽根遺跡主要遺構配置図（『史跡池上曽根遺跡保存整備事業報告書』2000 和泉市教育委員会に加筆）

調査前風景（南から）

第１環濠南側の肩（東から）

第２環濠北側の肩（東から）

第11図



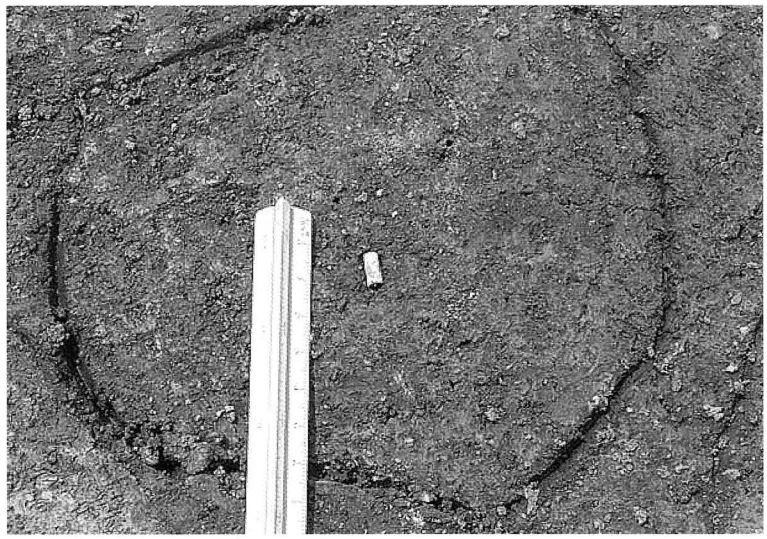
第２環濠南側の肩（東から）

第１遺構面遺構検出状況（北から）

第１遺構面遺構掘削状況（北から）

第12図

第２遺構面遺構検出状況（北から）



管玉出土状況（東から）

第２遺構面全景（西から）

第13図

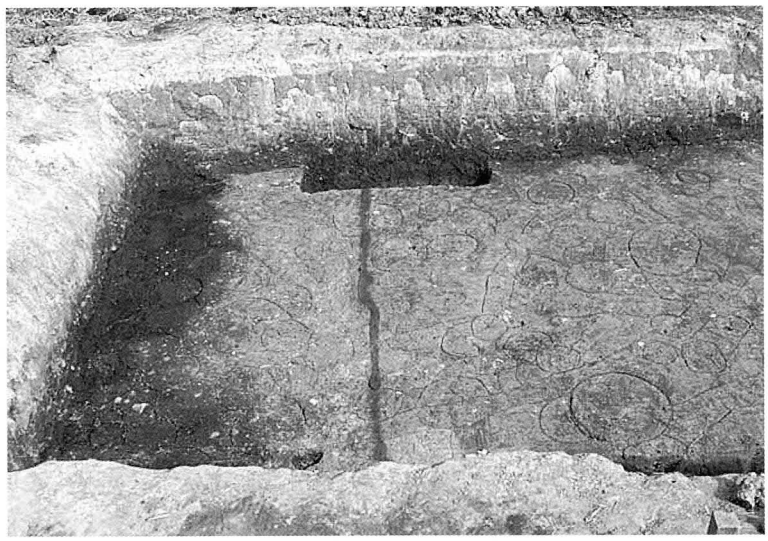
サブトレンチ１による第１環濠の南側肩（西から）

サブトレンチ２による第２環濠の北側肩（西から）

サブトレンチ３による第２環濠の南側肩（西から）

第14図

環濠の平面検出状況（左右のライン内側が第２環濠を表す）



環濠の平面検出状況（ライン左側が第１環濠を表す）

第２遺構面遺構掘削状況

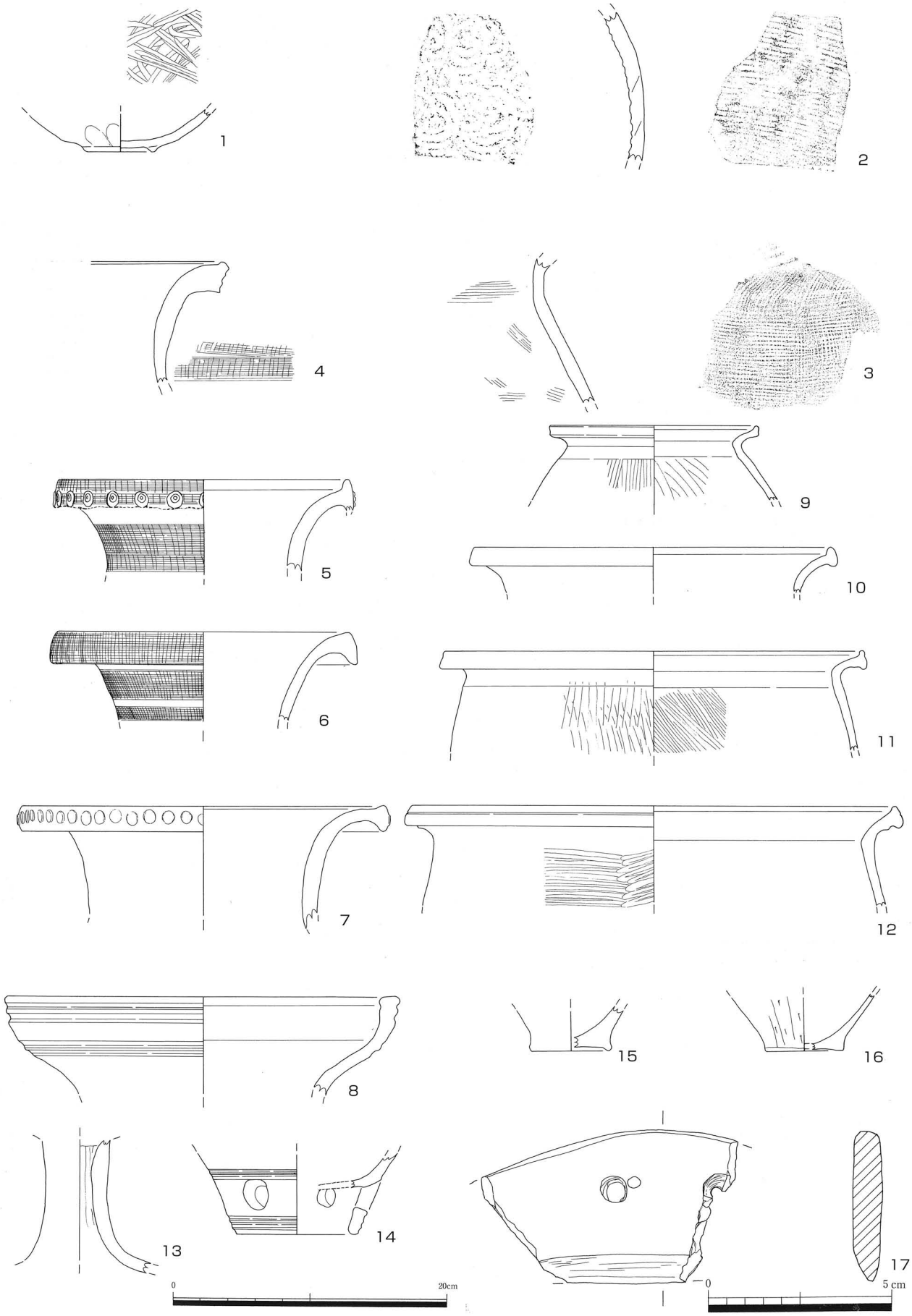
第15図

平面上の環濠（北から）
（手前が第１環濠の内側、奥２本の間が第２環濠）

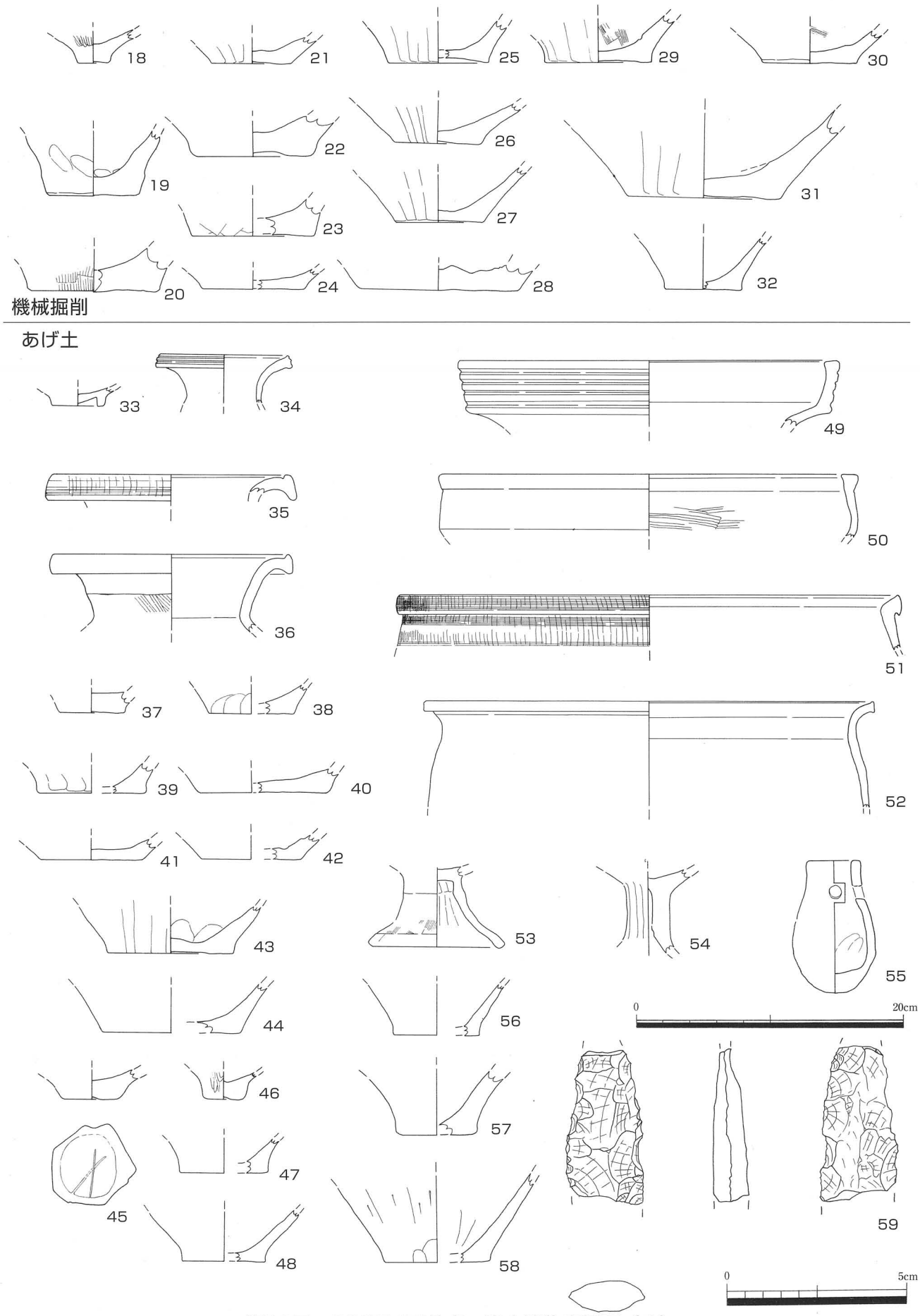
第16図

平面上の環濠肩ライン（南から）
（手前２本の間が第１環濠、奥が第２環濠）

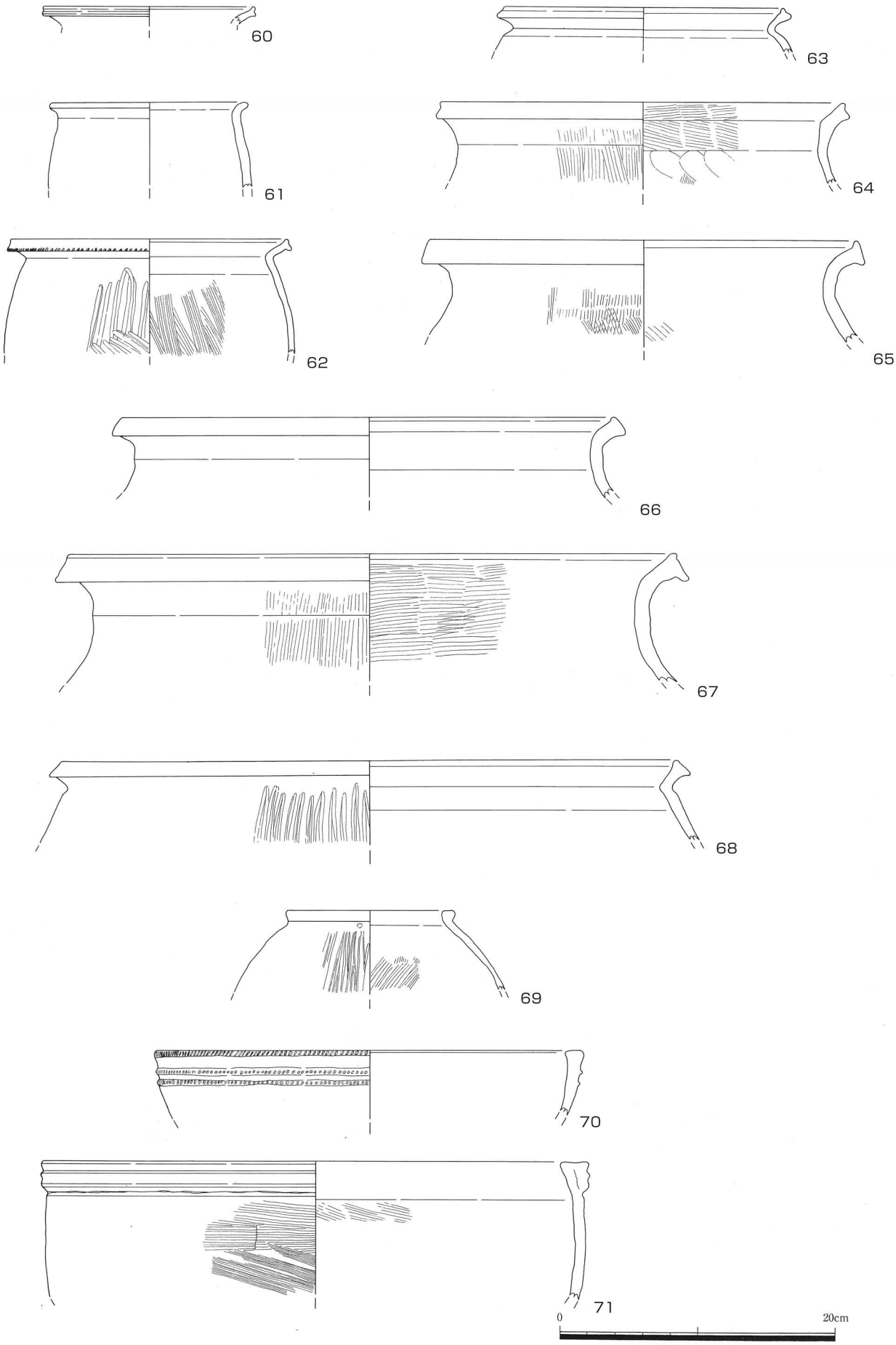
第17図



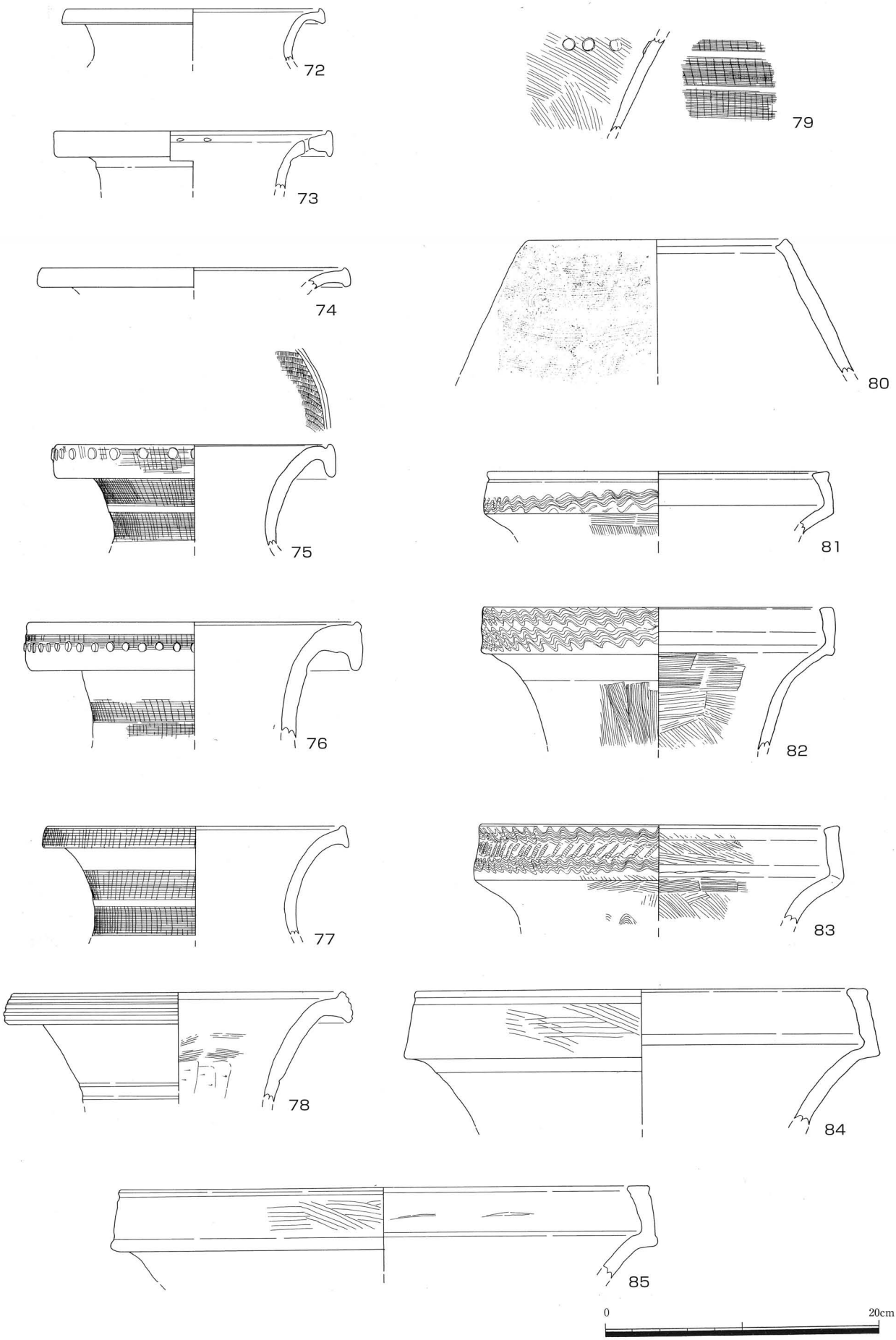
第18図　2005-03地点　出土遺物実測図（1）・（機械掘削）



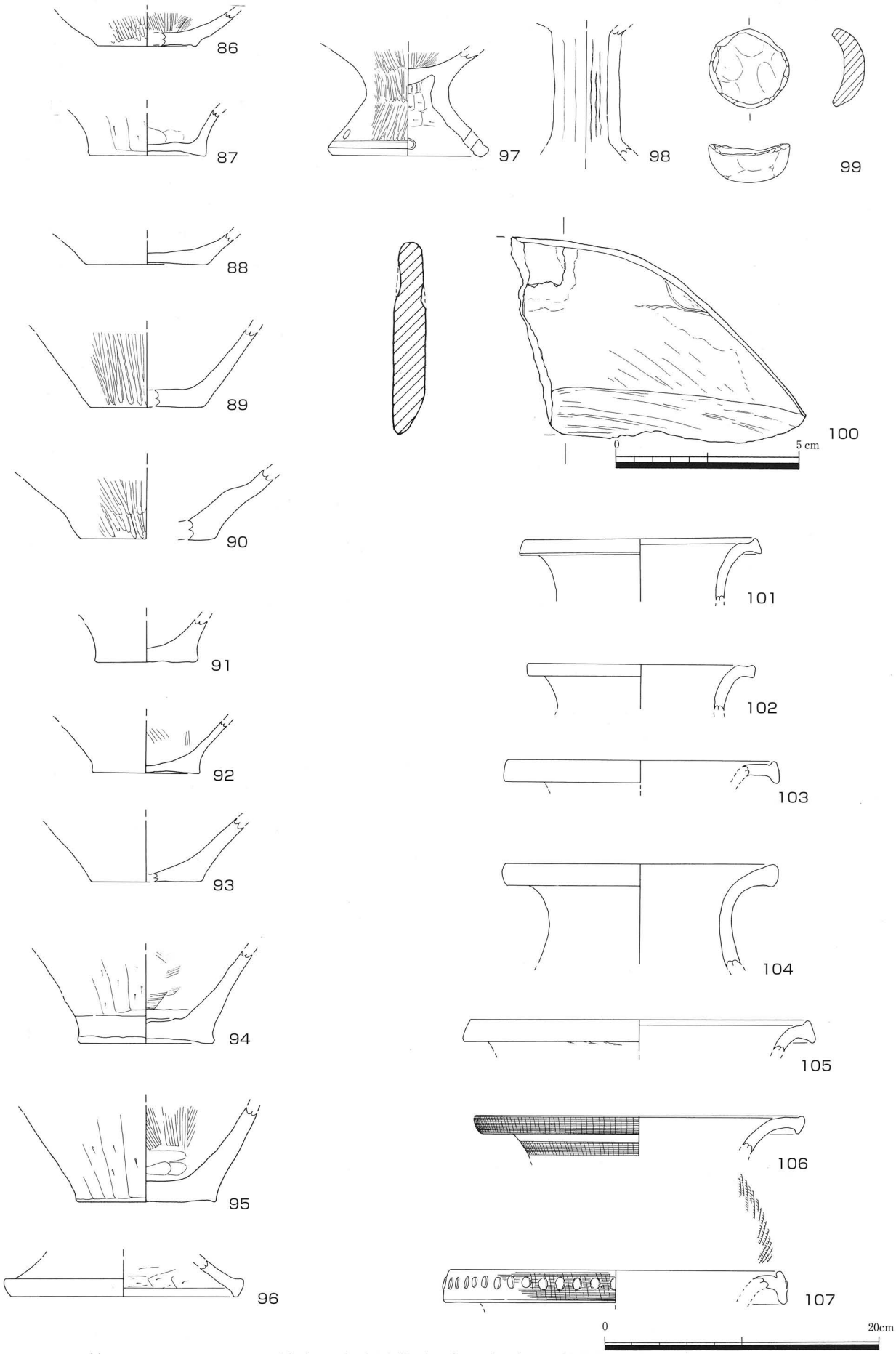
第19図　2005-03地点　出土遺物実測図（2）



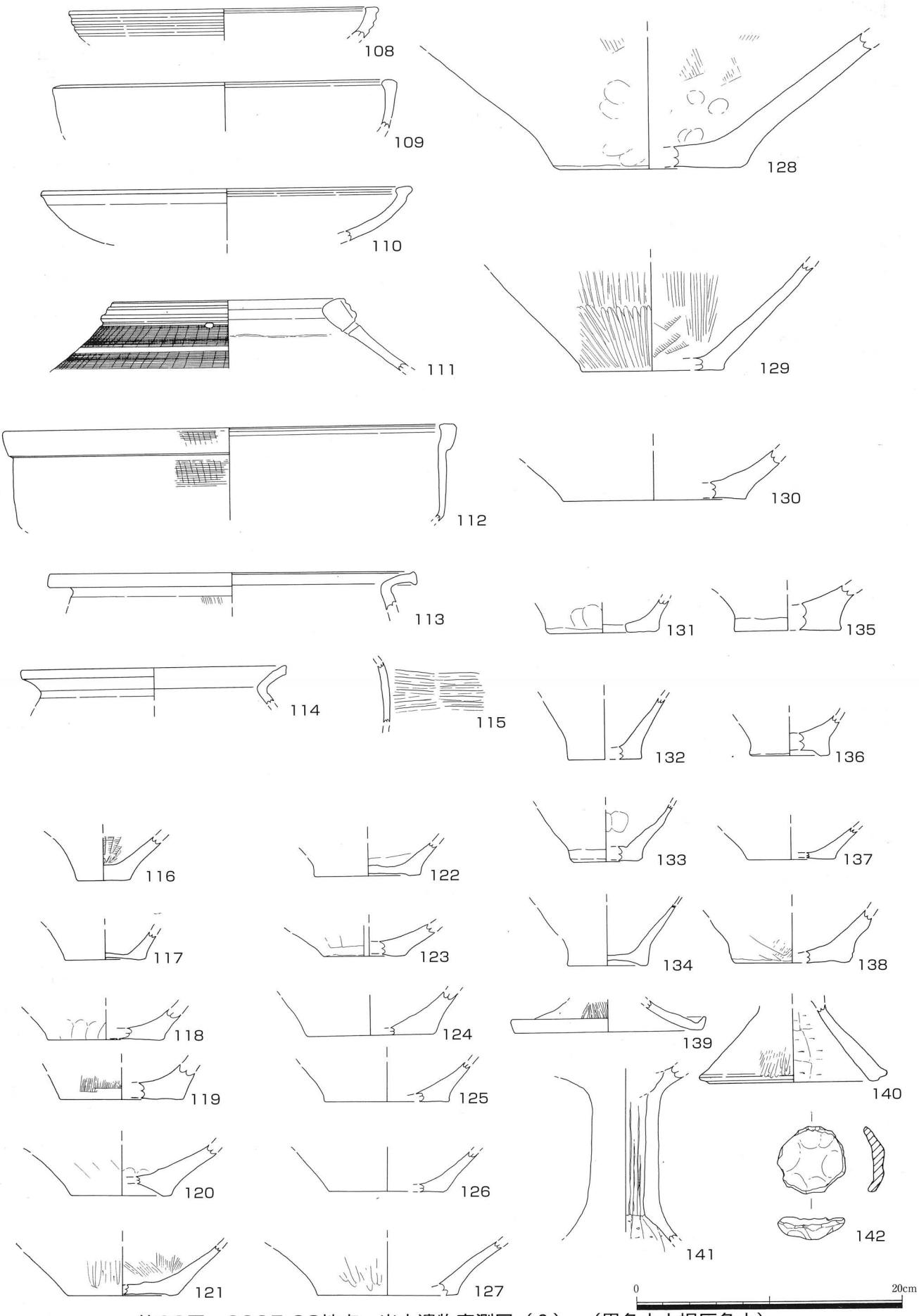
第20図　2005-03地点　出土遺物実測図（３）・（側溝）



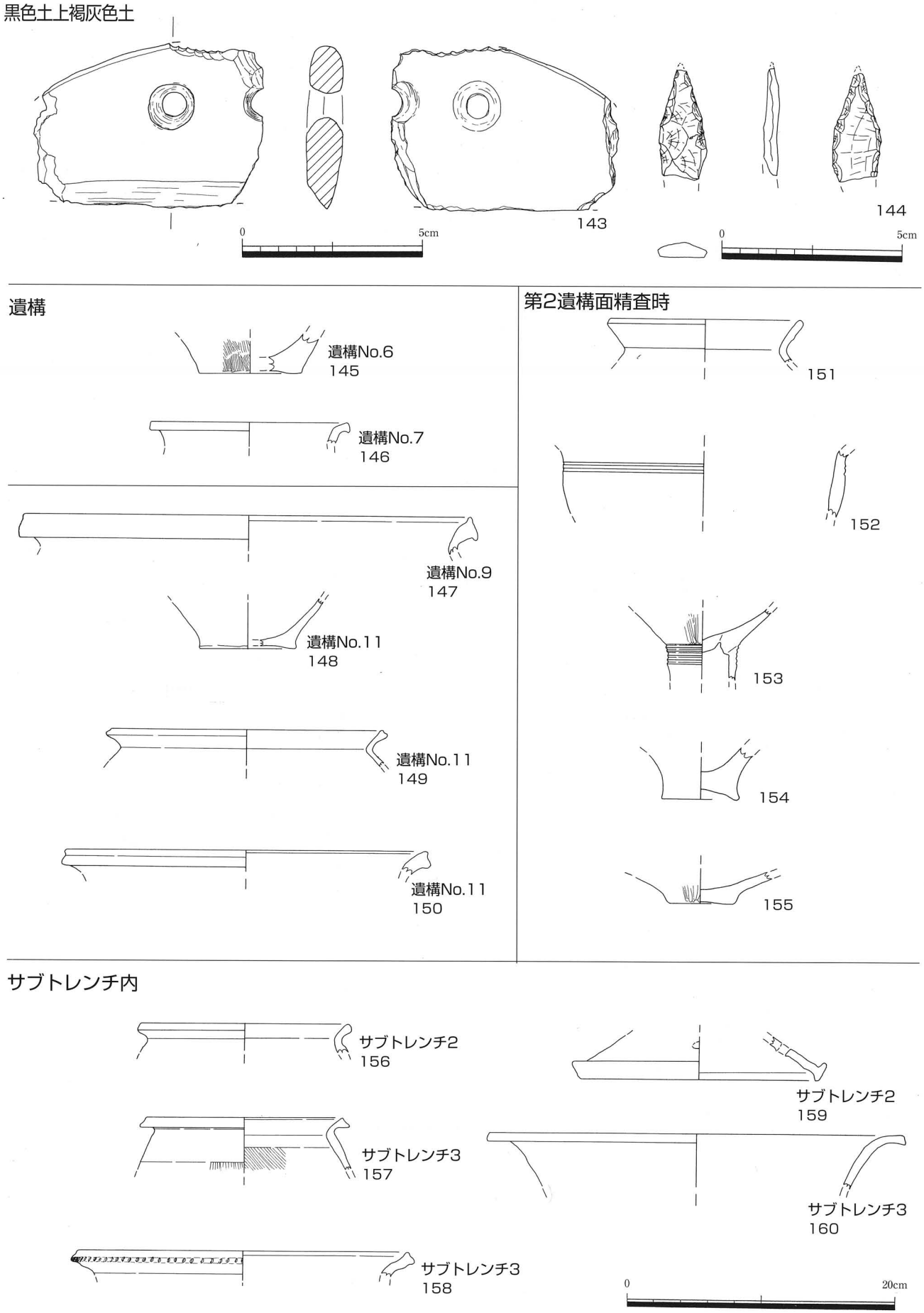
第21図　2005-03地点　出土遺物実測図（4）・（側溝）



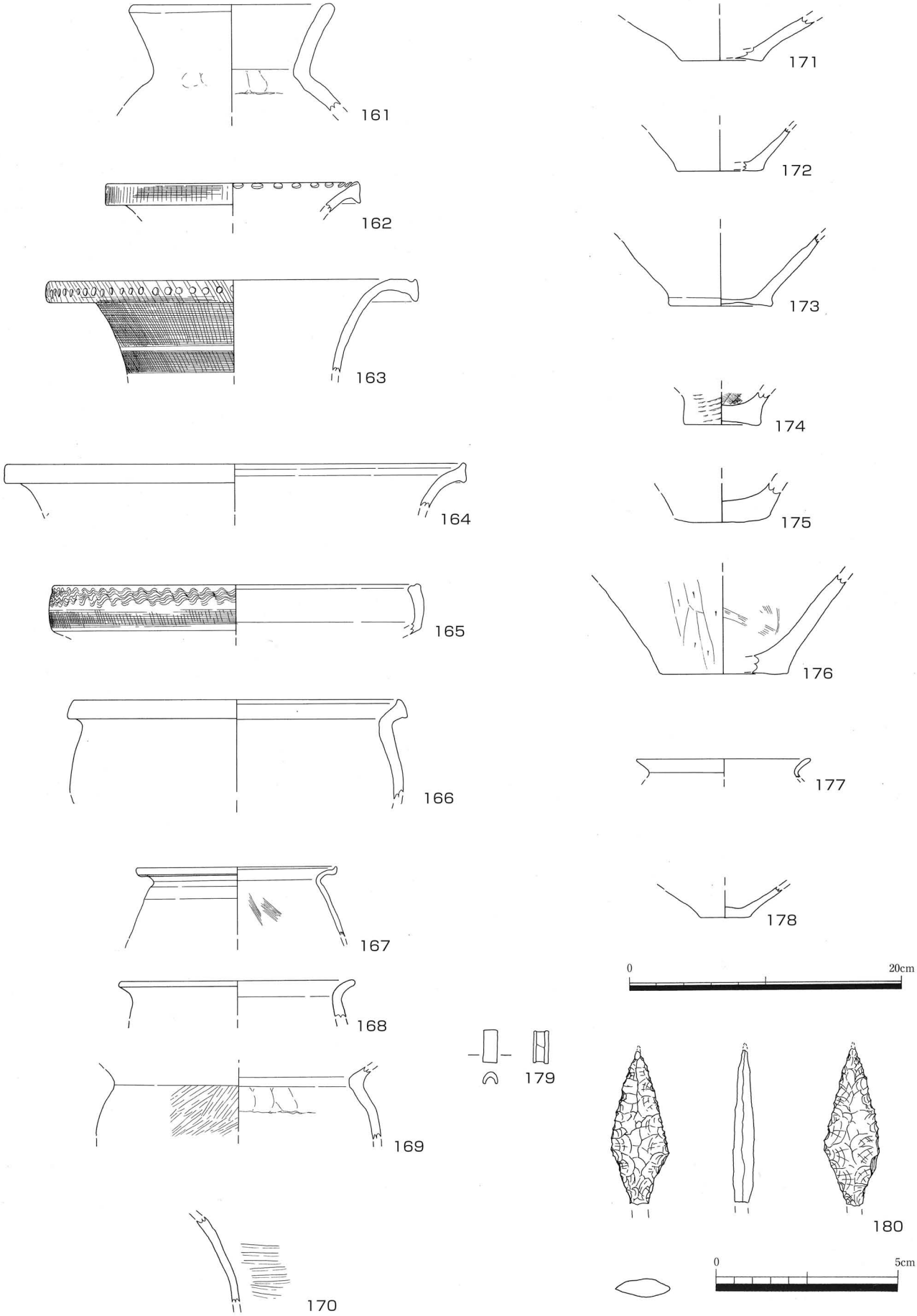
第22図　2005-03地点　出土遺物実測図（５）・（側溝 黒色土上褐灰色土）



第23図　2005-03地点　出土遺物実測図（６）・（黒色土上褐灰色土）

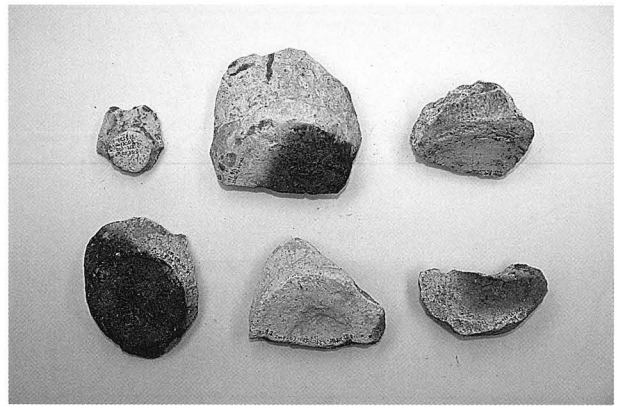


第24図　2005-03地点　出土遺物実測図（7）



第25図　2005-03地点　出土遺物実測図（８）（黒色土）

1～5

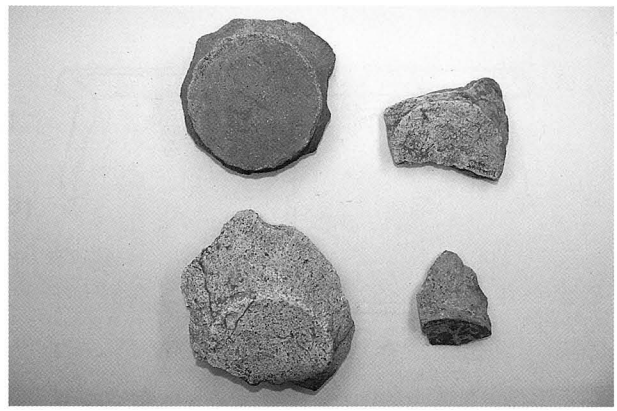


18～23

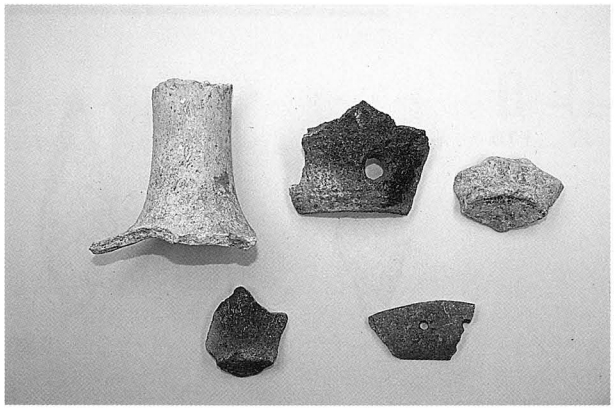
6～7

24～28

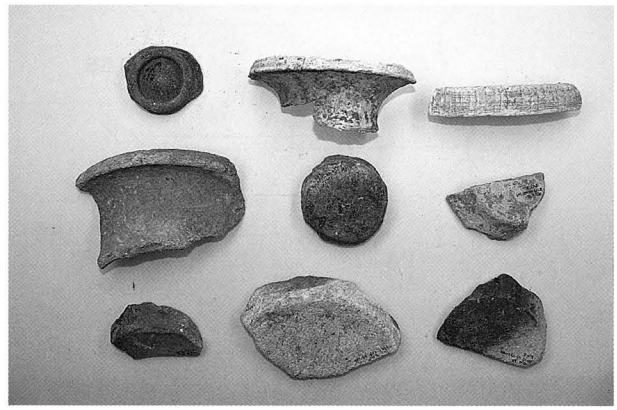
8～12



29～32

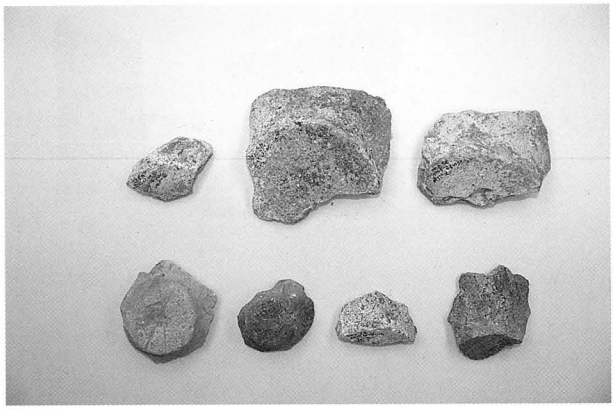


13～17



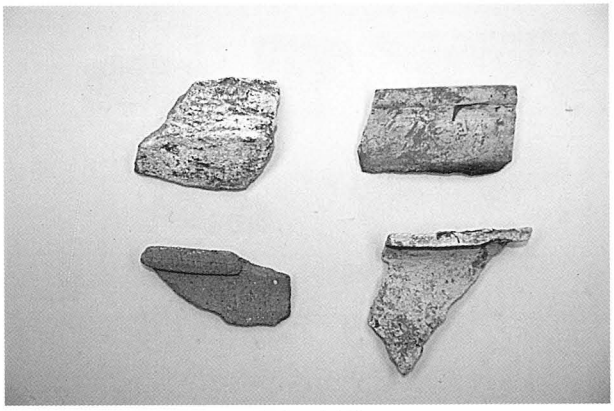
33～41

第26図　2005-03地点　出土遺物写真（1）

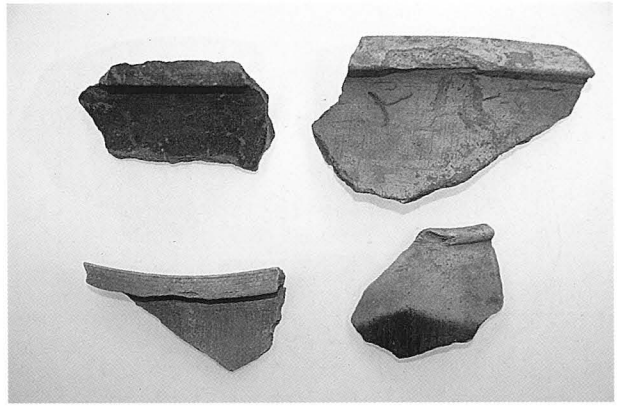


42～48

60～65

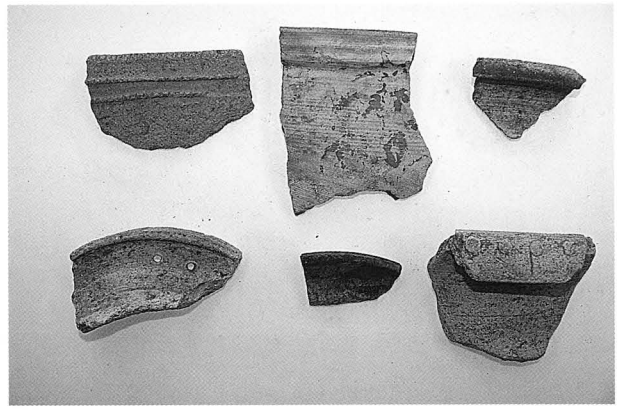


49～52

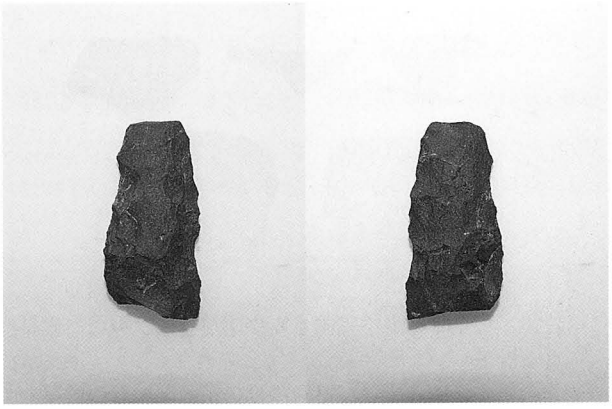


66～69

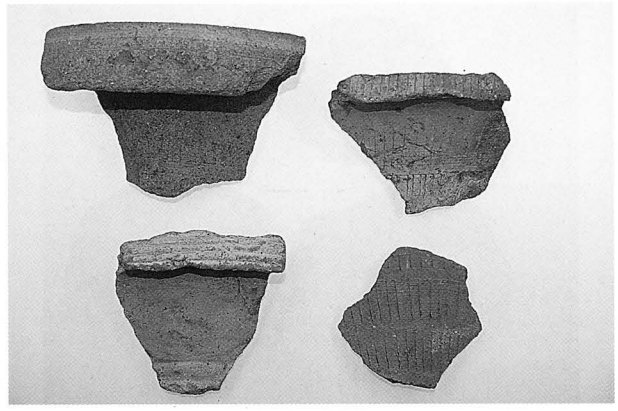
53～58



70～75

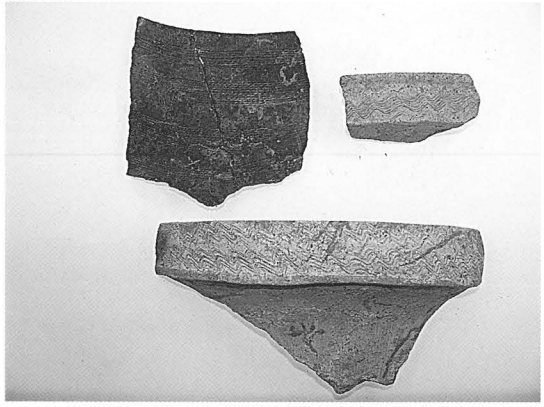


59

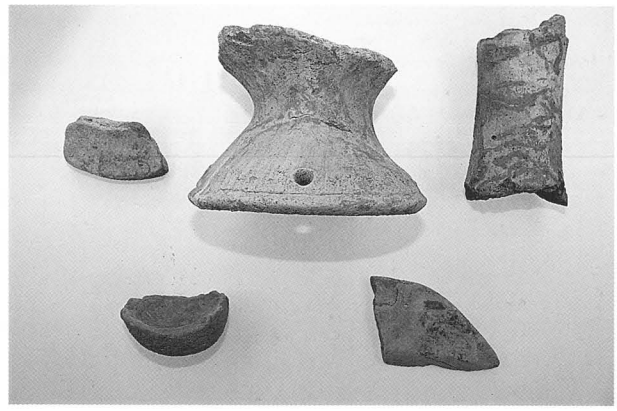


76～79

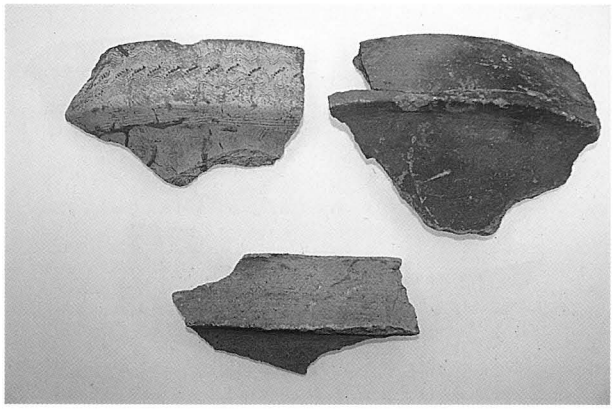
第27図　2005-03地点　出土遺物写真（2）



80～82

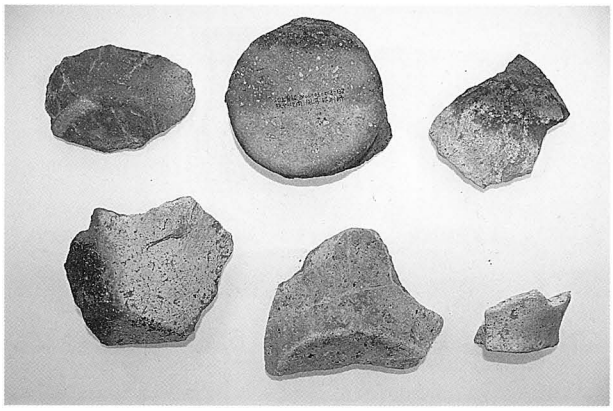


96～100



83～85

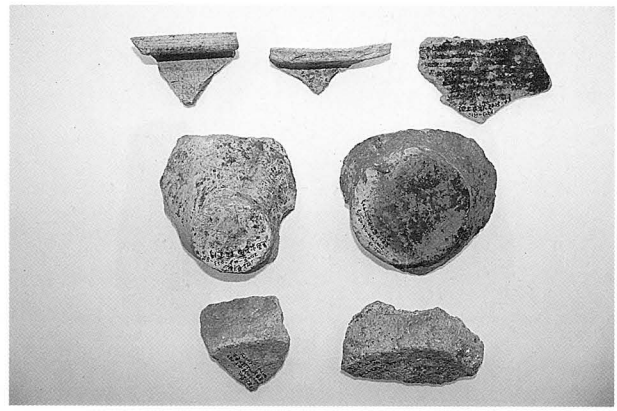
101～107



86～91

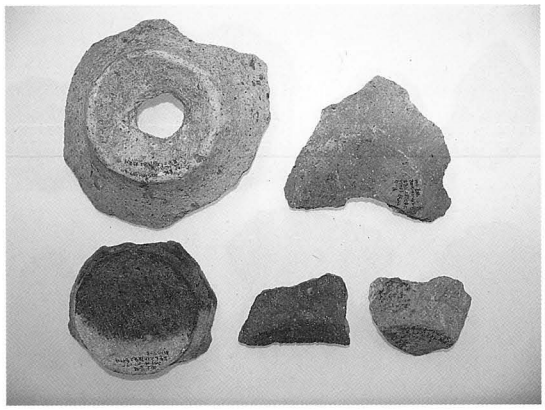
108～112

92～98



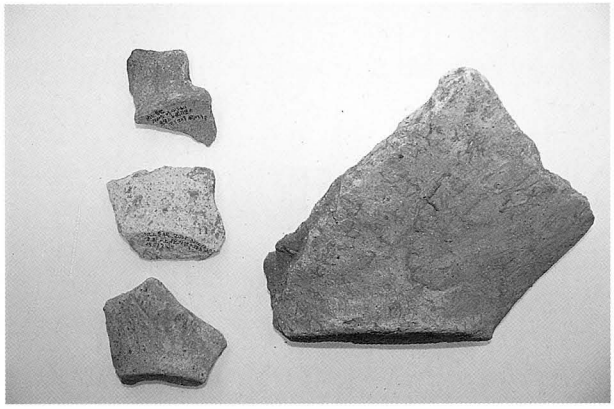
113～119

第28図　2005-03地点　出土遺物写真（3）

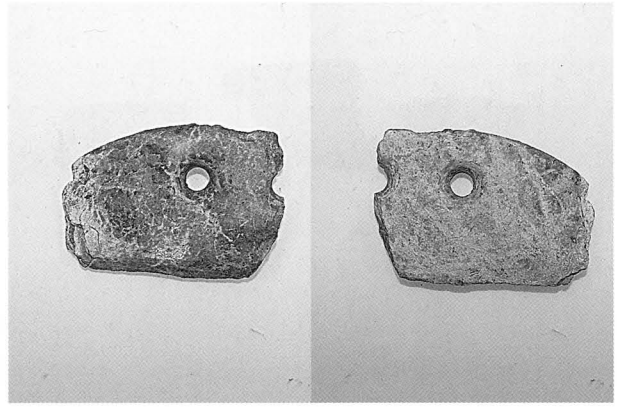


120～124

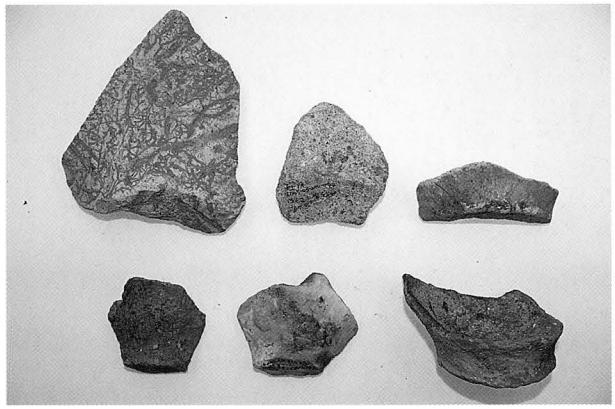
139～142



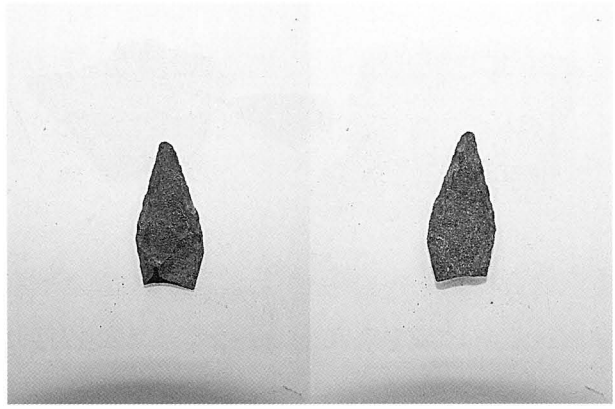
125～128



143



129～134



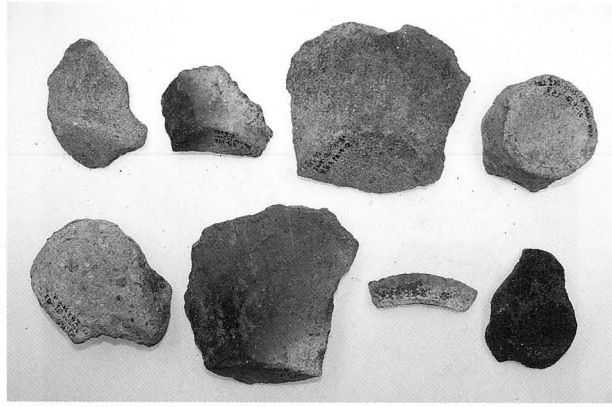
144

135～138

145～150

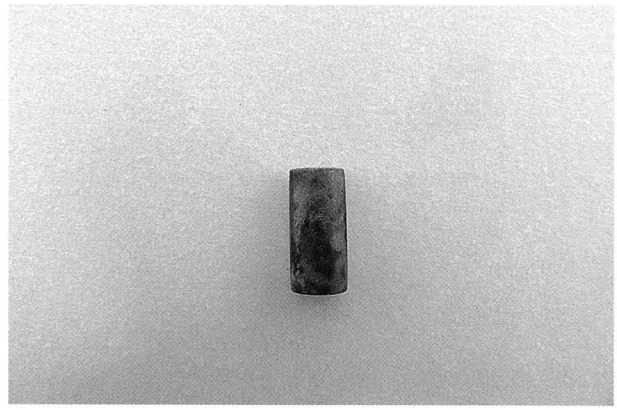
第29図　2005-03地点　出土遺物写真（4）

151～155

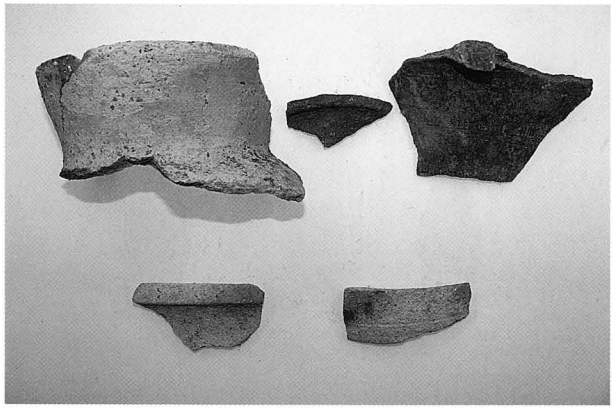


171～178

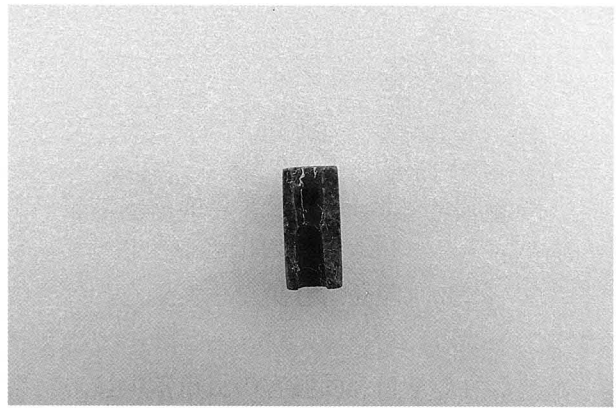
156～160



179

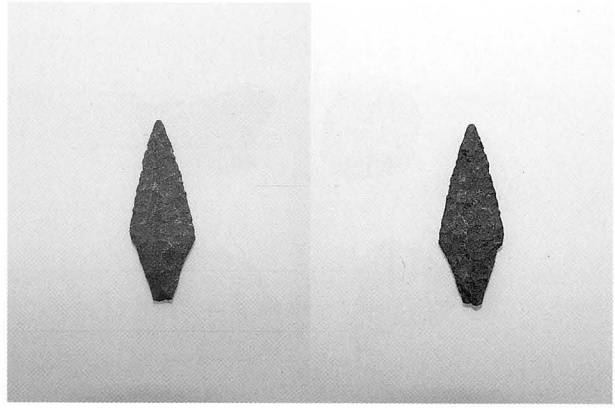


161～165



179

166～170

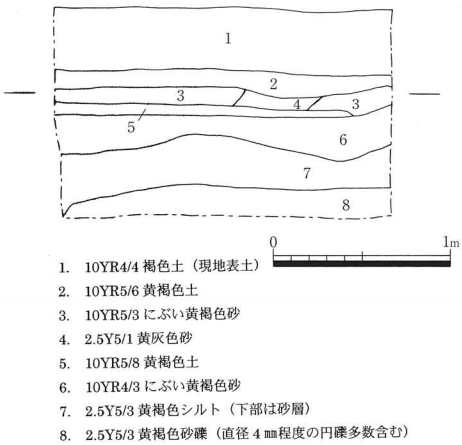


180

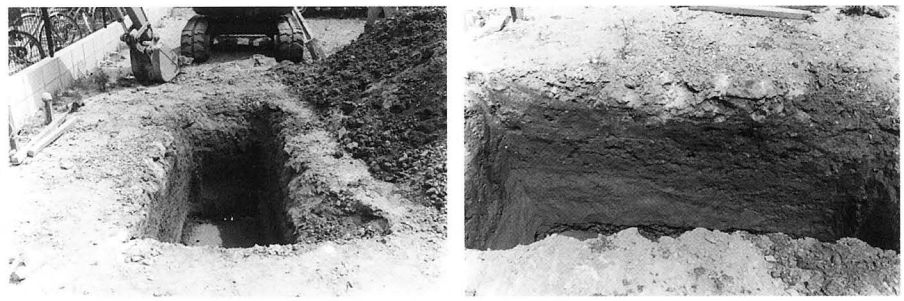
第30図　2005-03地点　出土遺物写真（5）

２００５－０４地点（曽根町2丁目12-5　平成17年5月30日調査）

2005-03地点の西150mの地点に位置する。個人住宅建設に伴い浄化槽設置が予定されたため、工事に先立って調査を実施した。浄化槽部分に幅0.9m、長さ２mのトレンチを設定し、重機で1.4mの深さまで掘削を行い、断面観察を行った。表土は褐色土（１層）で、以下、黄褐色を基調とした土、砂、シルトが堆積し、砂礫に至る（２～８層）。砂礫からは湧水が激しい。遺構、遺物は認められない。写真撮影、断面図を作成し、調査を終了した。



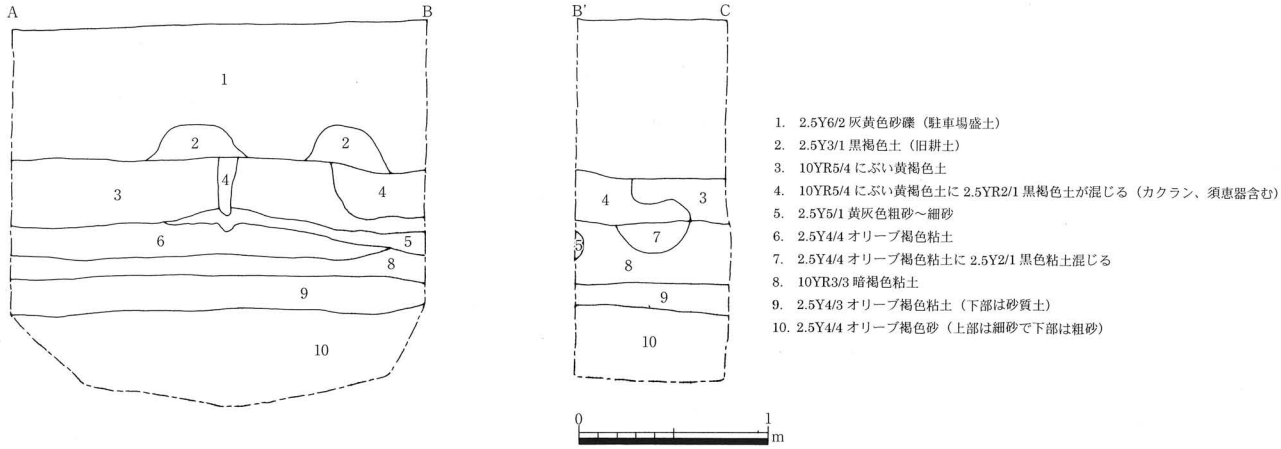
第31図　2005-04西壁断面図



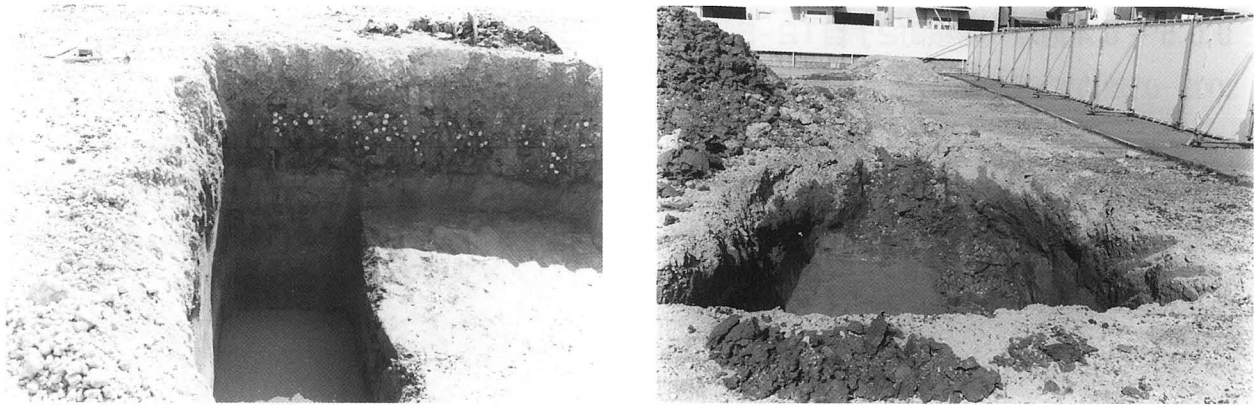
第32図　2005-04地点トレンチ写真

２００５－１０地点（千原町2丁目5-1、6-1、245-1、245-2、249、250、256-1、389-1、389-2　平成17年10月14日調査）

現況は店舗駐車場で、店舗拡張に伴う浄化槽について確認調査を実施した。史跡指定地に隣接し、国道26号の西に接する。地表から約80cmは、駐車場の盛土で部分的に旧耕土が認められる（１、２層）。下層は、にぶい黄褐色土（３層）で部分的に撹乱があり、以下はオリーブ褐色を基調とした粘土、砂の堆積である（５～10層）。遺構、遺物は認められない。写真撮影、断面図を作成し、調査を終了した。

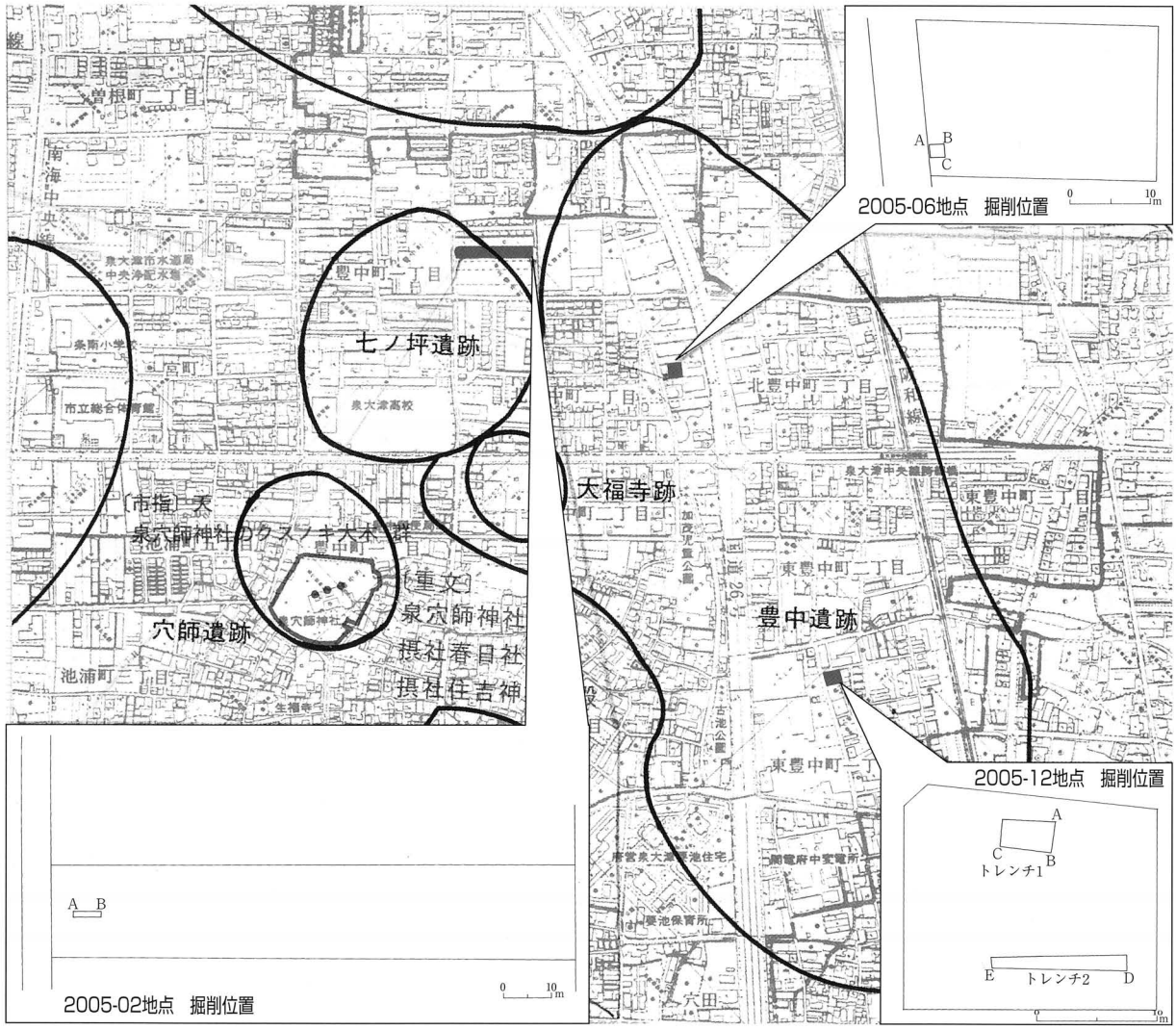


第33図　2005-10地点断面図



第34図　2005-10地点　トレンチ写真

2．豊中遺跡、七ノ坪遺跡

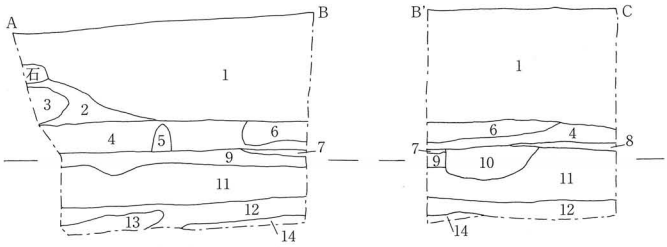


第35図　豊中遺跡・七ノ坪遺跡　調査区位置図（1：10,000）

豊中遺跡は現在までに最も継続して調査が行われている遺跡で、東西0.6km、南北1.2kmを測る。国道26号付近は古墳時代の、泉大津中央線付近は平安～中世にかけての集落がみつかっている。中世の遺構として、南北方向に流れる水脈上に井戸が多数見られるのも当遺跡の特徴である。今年度は、分譲住宅宅地造成、鉄骨２階建共同住宅の２件の調査を実施した。全面調査に及ぶ確認調査はなかったが、古墳時代の柱穴を確認できた。

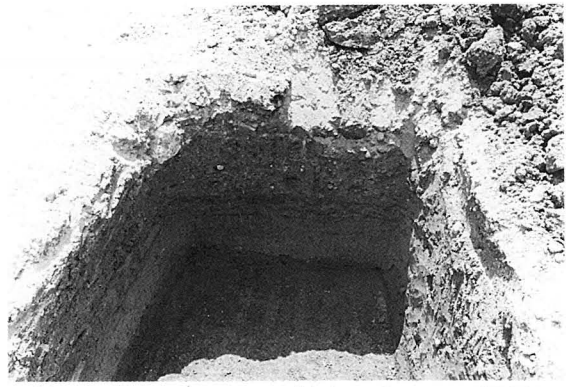
２００５－０６地点（北豊中町2丁目996-9の一部　平成17年8月1日調査）

分譲住宅宅地造成に先立つ確認調査である。当該地西で国道26号と接する。道路の人孔となる部分にトレンチを設定し、現況地盤より1.3mが人孔底となるため、その深さまで重機で掘削し断面の観察を行った。トレンチ上部60cmは盛土で、その下層に耕土が２層みられる（２、4層）。以下、オリーブ褐色粘土、灰黄色粘土、オリーブ褐色砂に至る。灰黄色粘土は瓦器片を含むが、他に遺物は確認できない。断面図の実測、写真撮影を行い調査終了とした。



1. 10Y5/2 オリーブ灰色土（盛土）
2. 7.5Y4/1 灰色土に部分的に 2.5Y5/4 黄褐色粘土ブロックを含む（旧耕土）
3. 5Y4/2 灰オリーブ土
4. 5Y5/1 灰色土（旧耕土）
5. 2.5Y5/4 黄褐色粘土
6. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色土
7. 2.5Y5/3 黄褐色シルト（旧耕土）
8. 5Y3/1 オリーブ黒色土（旧耕土）
9. 2.5Y4/6 オリーブ褐色粘土
10. 2.5Y6/1 黄灰色砂
11. 2.5Y6/2 灰黄色粘土（瓦器、マンガン含む）
12. 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂
13. 2.5Y4/2 暗灰黄色砂
14. 2.5Y4/2 暗灰黄色砂礫混じり粘土

第36図　2005-06地点　断面図



第37図　2005-06地点　トレンチ写真

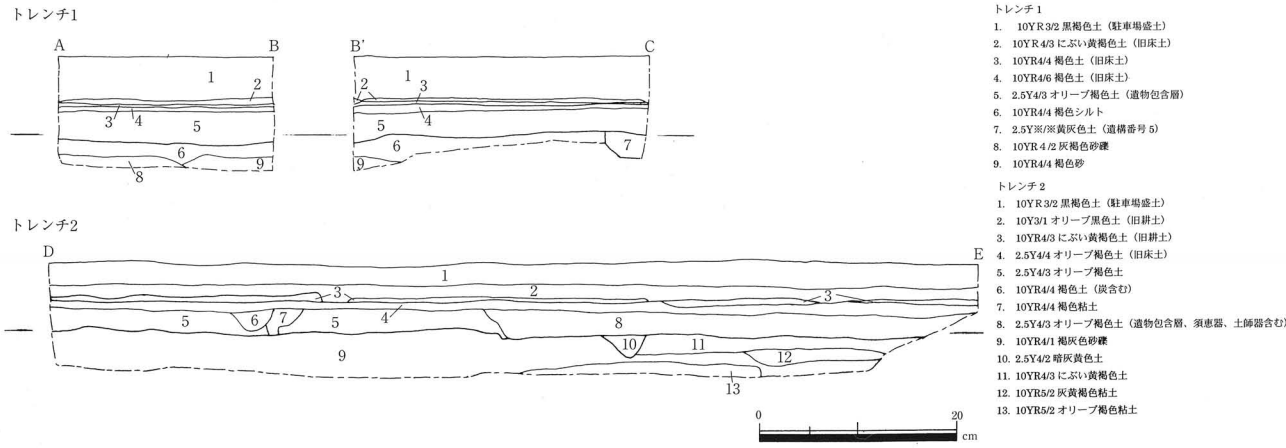
２００５－１２地点（東豊中町１丁目967-10　平成17年12月8、9日調査）

遺跡中央やや南に位置し、当該地位置周辺部は古墳時代の住居が確認されている。２階建て共同住宅建設が予定されたため工事に先立ち合併浄化槽と建物の２カ所にそれぞれトレンチを設定し、確認調査を実施した。敷地北側浄化槽部分をトレンチ１とし、4.3×2.5mの規模とした。南側建物部分をトレンチ２とし、11m×1.4mの規模とした。それぞれ重機と人力で掘削し断面、平面の観察を行った。トレンチ１の層序は現況地盤の駐車場盛土の下層に３層の旧床土があり、耕土は削平されていた。その下層のオリーブ褐色土は約30cmあり、土師器、須恵器を含む遺物包含層である。この層から切り込む遺構がみつかったため平面を精査し、柱穴８基、不定形土坑１基を検出した。柱穴のうち２基は、直径60cmを測るが、調査区が狭いためどのような建物を構成するのかは不明である。

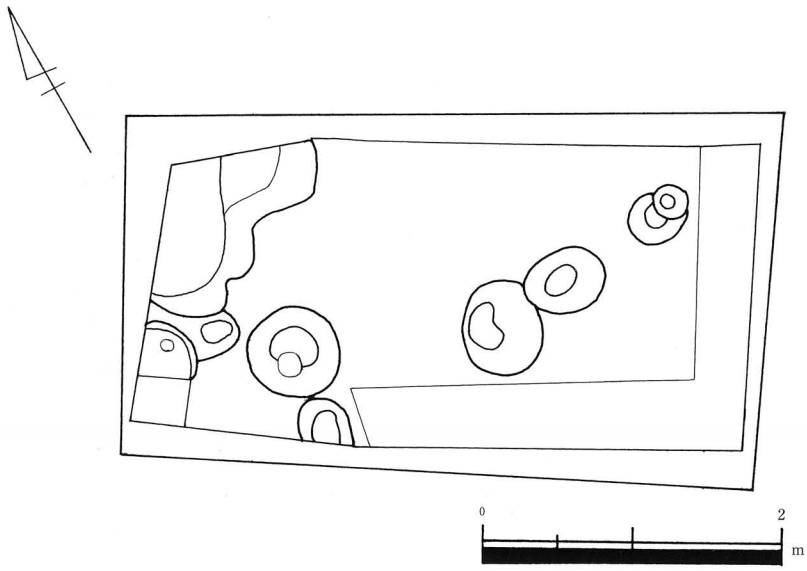
トレンチ２は8.5m南に位置する。１～５層まではトレンチ１と同様であるが、５層を切り込む遺構も断面では認められる。８層も５層を切り込む層で、トレンチの中央から西にかけて溝状の落ち込みとなり遺物も含まれる。この下層は褐色の砂礫がトレンチの大部分に堆積するが、遺物は含まれていない。旧古池が道路を挟み西にあるため、これに関連する砂礫層とも考えられる。

第40図は、遺構No. 9から検出した土師器高坏の一部である。外面はナデの後ハケの調整がみられる。胎土は0.1mmの砂粒を含むが密である。

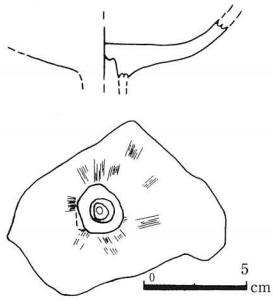
トレンチ1と2の間に新たなトレンチを設定し、柱穴の確認を予定したが、設計変更により、掘削深度を浅くすることとなったため、本調査をもって終了とした。



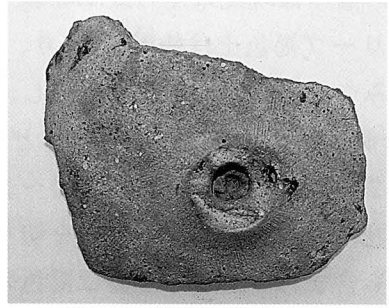
第38図　2005-12地点　断面図



第39図　2005-12地点　トレンチ1遺構平面図



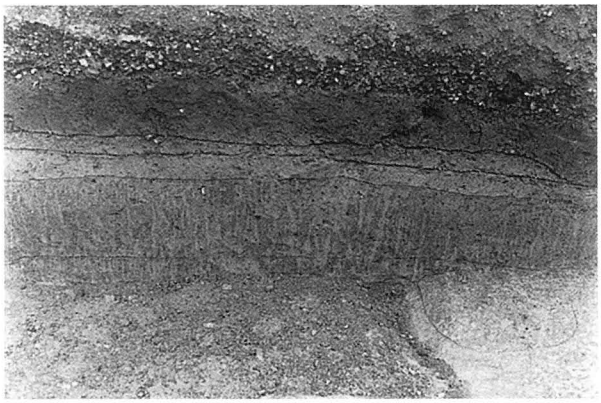
第40図　2005-12地点　出土遺物実測図



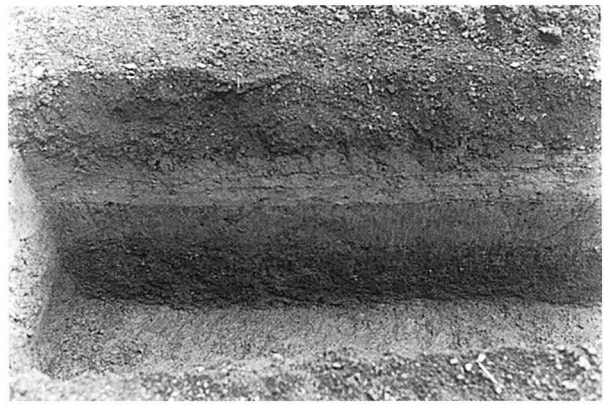
第41図　2005-12地点　出土遺物写真

トレンチ1　東壁断面

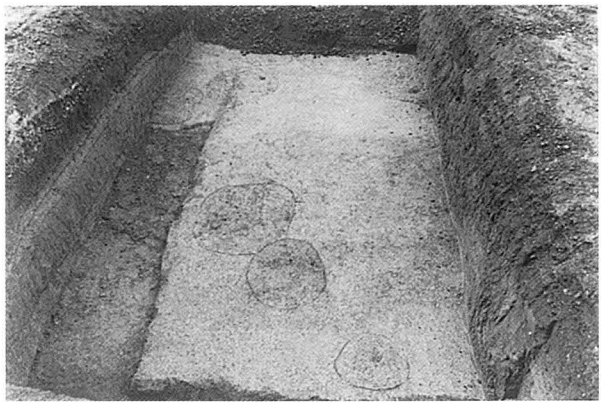
トレンチ2　全景



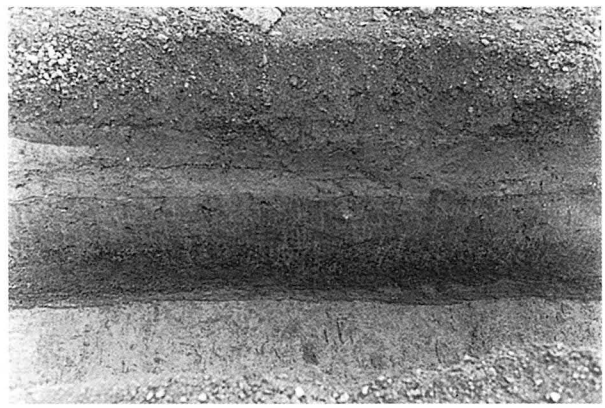
トレンチ1　南壁断面



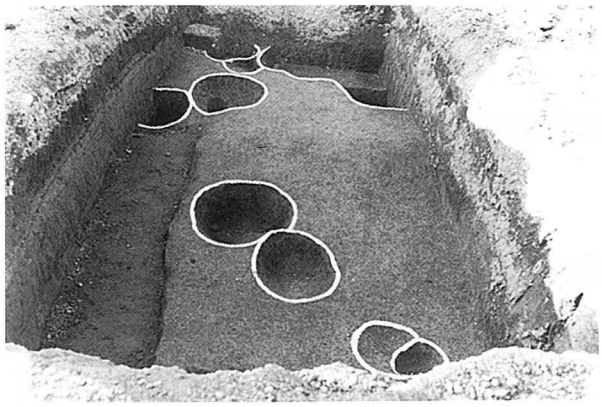
トレンチ2　南壁断面（1）



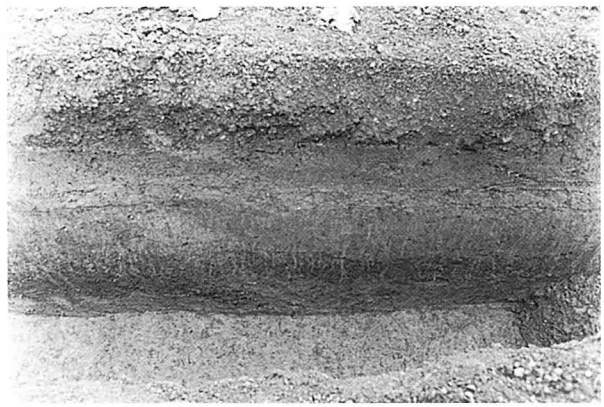
トレンチ1　遺構検出状況



トレンチ1　南壁断面（2）



トレンチ1　遺構掘削状況



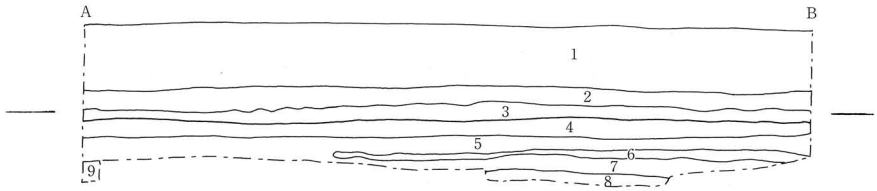
トレンチ1　南壁断面（3）

第42図　2005-12地点　トレンチ写真

七ノ坪遺跡は北豊中町１丁目、２丁目一帯に所在する古墳時代、中世の遺跡で、府立泉大津高校の地歴部員による土師器壺採集が遺跡発見の契機となり、小字を遺跡名とした。昭和43年、同高校の校舎改築工事に先立つ発掘調査で土壙墓、弥生時代の河川が、昭和47年の同校内の調査では、古墳時代の竪穴住居、方形集周溝墓、木棺直葬墓などが、また、昭和57年の調査では和泉では最初の水田跡の発見があり、下層の水田は弥生時代であると思われる。中世の遺構としては井戸、溝、柱穴、土壙などがある。いずれも泉大津高校内で、同遺跡の中心部である。

２００５－０２地点（北豊中町2丁目517-1　平成17年5月23日調査）

府立泉大津高校の北約150mに位置し、敷地の西側が遺跡に含まれる。分譲住宅宅地造成に先立ち、汚水管埋設部分について確認調査を実施した。幅1.3m、長さ８mのトレンチを設定し重機で掘削を行い、断面、平面観察を行った。現況地盤から50cmまでは既存建物解体時の埋め戻し土で、以下、旧耕土、旧床土、暗緑灰色土、黄褐色粘土、灰色砂、灰オリーブ粘土に至る。いずれの層も４～20cmの幅で堆積する。旧床土下層の暗緑灰色土（４層）は、瓦器片、須恵器などの破片を含む層である。トレンチ底面を精査すると、平面的に変化がみられたため一部下層を人力掘削したが、遺構・遺物は認められなかった。写真撮影、断面図実測を行い、調査を終了した。

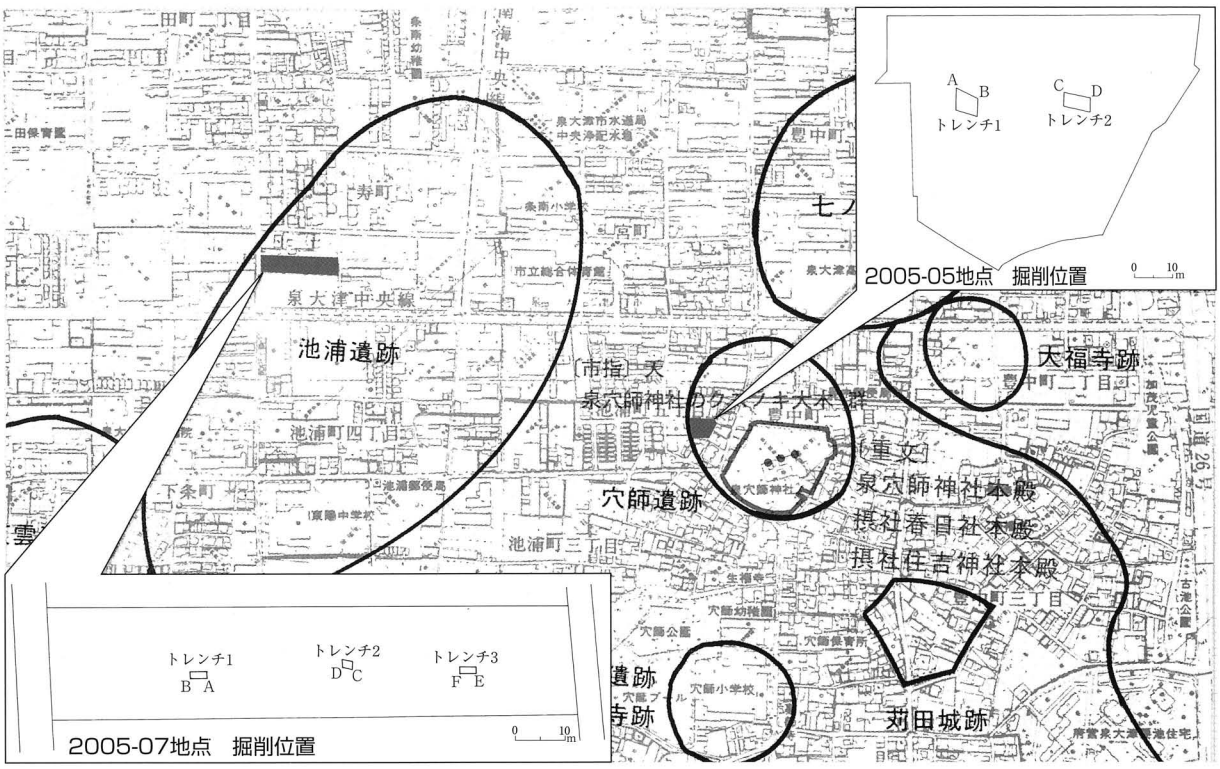


1. 現地表土（直径 5～10mm の円礫、建物解体時の埋め戻し土）
2. 5GY2/1 オリーブ黒色粘土（旧耕土）
3. 2.5GY4/1 暗オリーブ灰色土（旧床土）
4. 7.5GY4/1 暗緑灰色土（瓦器片、須恵器片など数点含む）
5. 2.5Y5/4 黄褐色粘土
6. 5Y5/1 灰色砂
7. 5Y4/2 灰オリーブ粘土
8. 2.5Y3/1黒褐色粘土
9. 7.5Y5/1 灰色粘土

第43図　2005-02地点　北壁断面図

第44図　2005-02地点　トレンチ全景、トレンチ北壁断面図

3．池浦遺跡、穴師遺跡

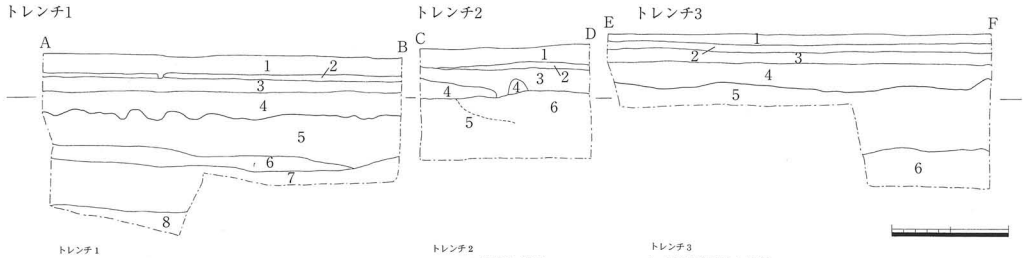


第45図　池浦遺跡・穴師遺跡調査区位置図（1：10,000）

池浦遺跡は、弥生時代前期中段階に始まる泉州地域で最も古い弥生集落として知られている。市のほぼ中央部に位置し、遺跡の中心部は市立病院の東側であると推測される。池上曽根遺跡との関わりを考察する上で重要な遺跡であるが、これらの調査成果は昭和40～50年代にかけてのことで、昭和60代以降は、大規模開発がほとんどみられない。これにより近年の調査は確認調査にとどまっているが、平成９年度の調査で朝鮮系の無文土器の体部を検出したが遺構は認められなかった。今年度は分譲住宅建設に伴う宅地造成が予定されたため確認調査を実施した。

２００５－０７地点（寿町83-1　平成17年8月17日調査）

分譲住宅建設に先立つ確認調査を実施した。道路カ所に３ケ所のトレンチを設定し、重機にて掘削を行い、断面観察を行った。北側からトレンチ１～３とした。トレンチ１は、耕土、床土、黄褐色シルト、黄褐色粘土、黄褐色砂に至る。黄褐色シルトは遺物包含層で土師器数点が断面で確認できた。図48は同層からの柱状片刃石斧である。残存長5.2cm、幅2.3cm、厚さ1.4cmを測る。内外面ともに灰白色で、全体に摩滅が激しいが片側側面のみが平滑であることから、砥石として転用されたと思われる。トレンチ２も、耕土、床土、黄褐色シルトがみられたがその下層の暗灰黄色砂より非常に湧水が激しく、下層の詳細確認が困難であった。トレンチ３は、トレンチ１とほぼ同様の層位であった。一部下層の人力掘削を行ったが、遺構は認められなかったため、平面断面の実測図作製、写真撮影を行い、調査終了とした。

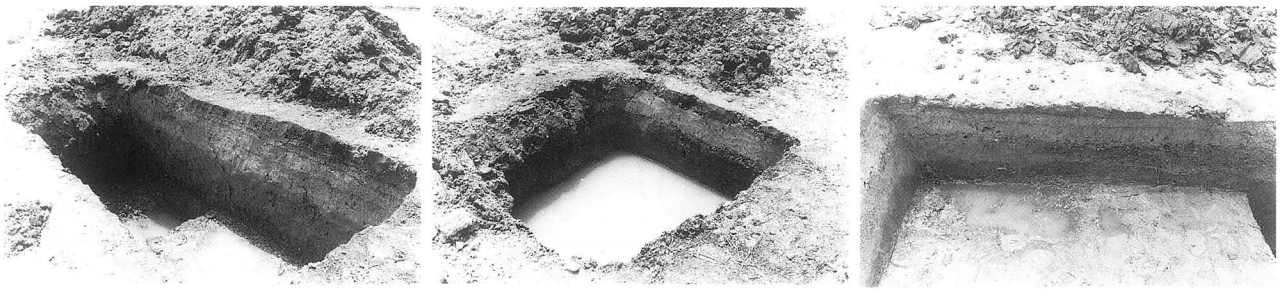


トレンチ1
1. 2.5Y4/2 暗灰黄色土（耕土）
2. 2.5Y7/2 灰黄色土（床土）
3. 2.5Y4/3 オリーブ褐色シルト（床土）
4. 2.5Y5/3 黄褐色シルト（下部は粘質土，遺物包含層瓦器，土師器含む）
5. 2.5Y5/4 黄褐色粘土（粘性強い　下層は 2.5Y4/6 オリーブ褐色砂）
6. 2.5Y4/6 オリーブ褐色砂混じり粘土
7. 2.5Y5/1 黄灰色砂
8. 2.5Y4/1 黄灰色粘土（粘性が非常に強い）

トレンチ2
1. 2.5Y5/1 黄灰色土（耕土）
2. 5Y5/2 灰オリーブ土（床土）
3. 2.5Y5/4 黄褐色シルト
4. 2.5Y6/2 灰黄色シルト
5. 2.5Y5/3 黄褐色粘土
6. 2.5Y6/2 灰黄色シルト

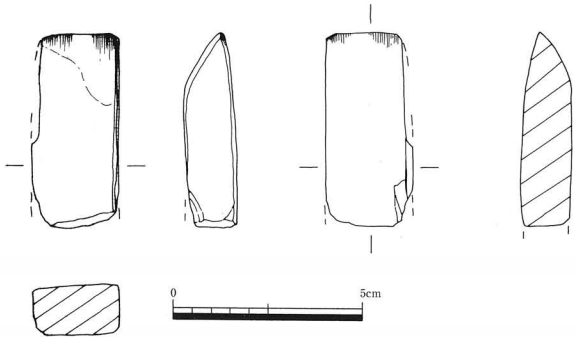
トレンチ3
1. 2.5Y5/2 暗灰黄色土（耕土）
2. 2.5Y6/3 にぶい黄色土（床土）
3. 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト（やや砂が混じる）
4. 2.5Y5/3 黄褐色砂
5. 2.5Y5/6 黄褐色粘土（粘性非常に強い）
6. 2.5Y4/1 黄灰色粘土（粘性非常に強い）

第46図　2005-07地点南壁断面図

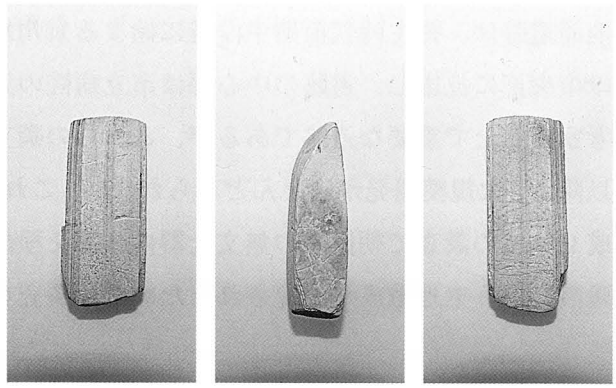


トレンチ1　　トレンチ2　　トレンチ3

第47図　2005-07地点トレンチ写真



第48図　2005-07地点出土遺物実測図



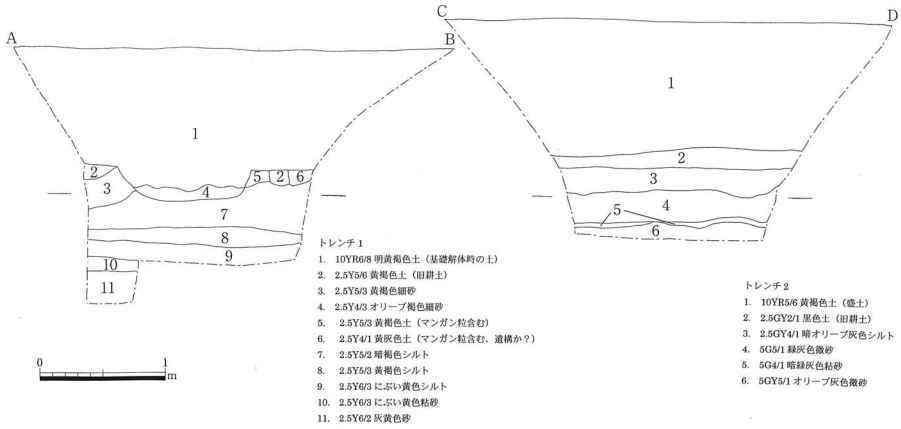
第49図　2005-07地点出土遺物写真

穴師遺跡は豊中遺跡の西側に位置し、その大半は泉穴師神社の境内である。遺跡半径は約200mと狭い。明確な遺構は認められないが、古墳時代及び中世の遺物の散布がみられる。近年、耕作地から宅地への転用により確認調査対象となることがあるが、遺跡全体の正確解明には至っていない。本年度は分譲住宅建設に伴う宅地造成工事に先立つ確認調査を1件実施した。

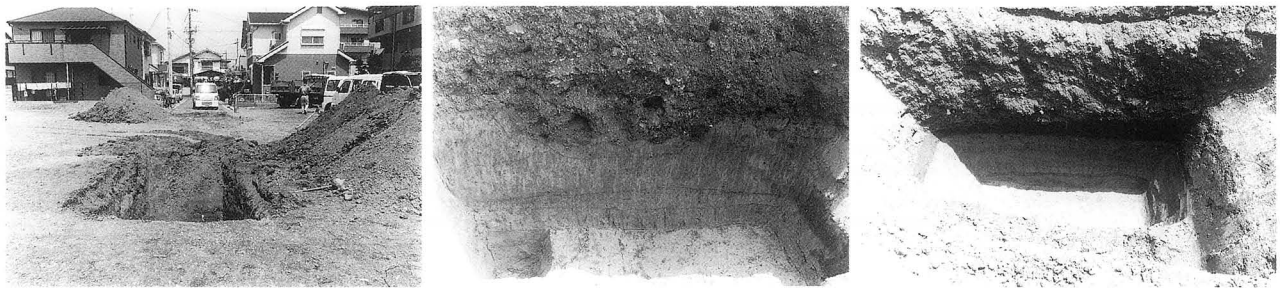
２００５－０５地点（池浦町5丁目441番１、8、11、15　平成17年6月17日調査）

遺跡南西端に位置する。分譲住宅建設に伴う宅地造成工事に先立ち調査を実施した。道路予定カ所にトレンチを設定し、重機で掘削を行った。約１m、既存建物時の盛土がありその下層に暗灰黄色シ

ルトをベースとした柱穴が確認できたが、全体に削平を受けている。更に80cmほど下層まで掘削したが、シルト層と砂層が続き遺構・遺物ともに認められない。盛土下層の暗灰黄色シルトの堆積状況を確認するため、ここから11m南に、トレンチ２を設定し重機で掘削を行った。ここも解体時の盛土が１ｍ近くあり、下層は、旧耕土、暗オリーブ灰色シルト、緑灰色及びオリーブ灰色の砂層に至る。ほぼ水平の堆積である。遺構・遺物は認められない。平面、断面の実測図作製、写真撮影を行い調査を終了した。

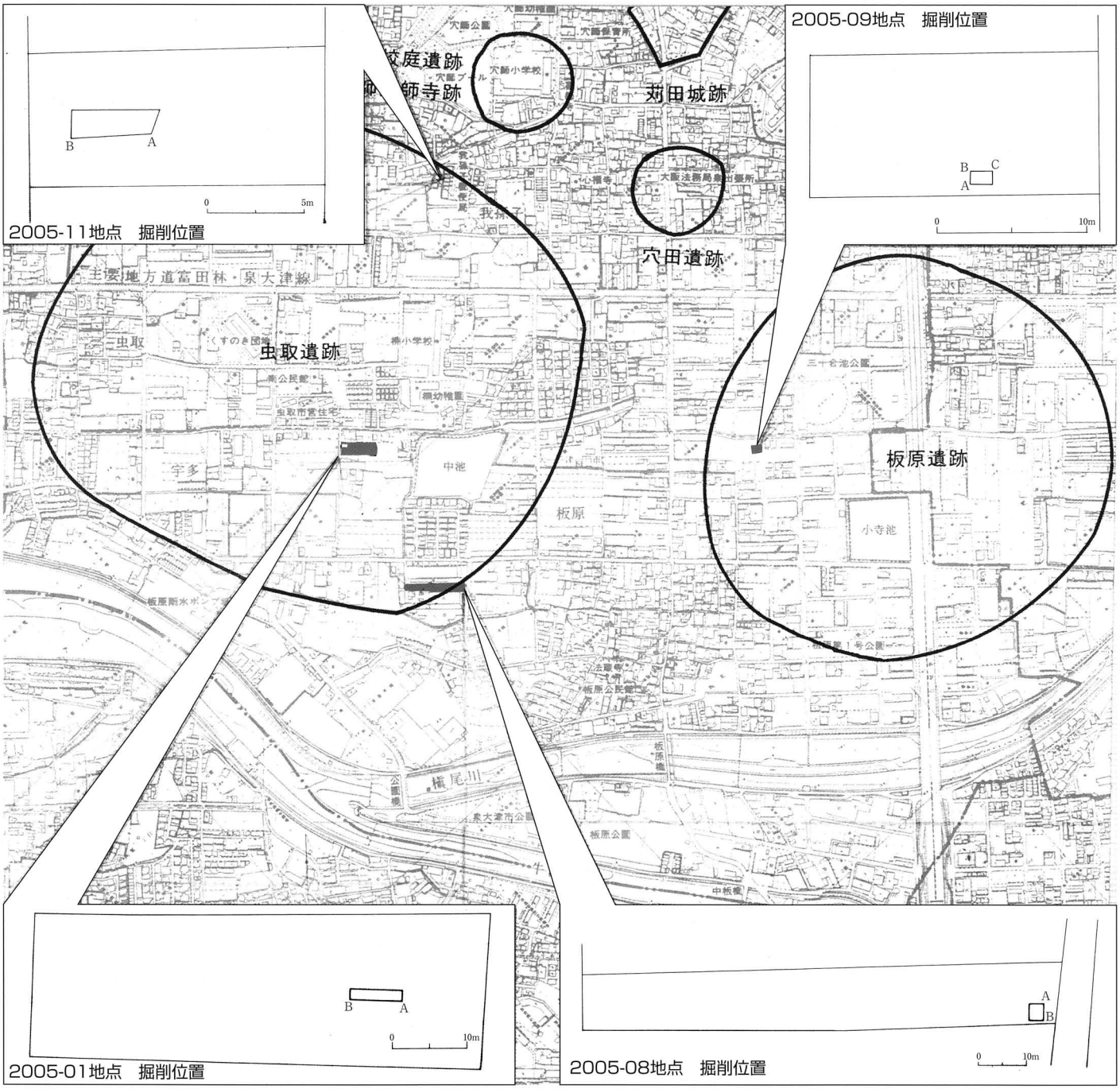


第50図　2005-05地点断面図



第51図　2005-05地点トレンチ写真

4．虫取遺跡、板原遺跡



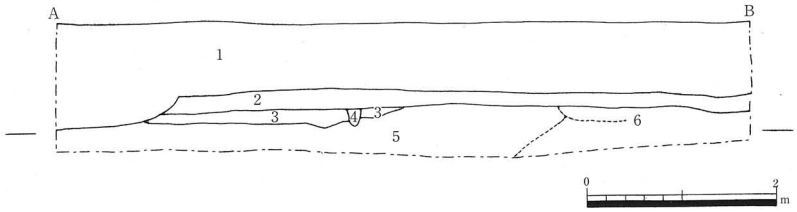
第52図　虫取遺跡・板原遺跡調査区位置図（1：10,000）

虫取遺跡は池上曽根遺跡に次ぐ面積を有する弥生時代の遺跡である。近年、宅地開発の増加が進む地域で、これまでは顕著な遺構が認められない場合が多かったが、羽釜・瓦器碗などを伴った中世井戸や溝などの中世居館を思わせる遺構を検出し、調査の進展により新たな成果が期待できる遺跡である。今年度は、分譲住宅建設に伴う宅地造成、長屋建住宅、個人住宅の３件に先立って確認調査を実施した。

２００５－０１地点（板原町１丁目283番の一部　平成17年5月18日調査）

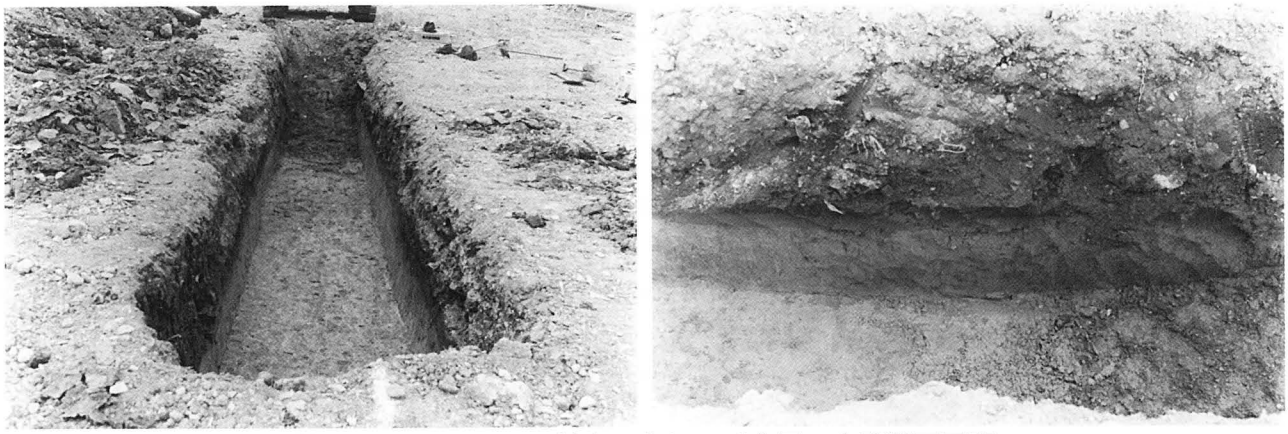
中池の西側に隣接する。分譲住宅宅地造成に先立つ調査で道路の汚水管部分について幅1.6m、長さ

7.3mのトレンチを設定し深さ1.3mまで重機で掘削を行った。現況地表土0.8～１mまでコンクリート基礎、針金などを含む織物工場の解体土で、以下、旧耕土、暗オリーブ色シルト、黄褐色粘土に至る。黄褐色粘土はトレンチ４m付近で砂質土に変わる。遺構・遺物は認められない。断面実測図作製、写真撮影を行い調査終了とした。



1. 盛土（建物基礎、コンクリート、針金など含む）
2. 10YR 3/1 黒褐色土（旧耕土）
3. 5Y4/4 暗オリーブ色シルト
4. 2.5Y5/6 黄褐色粘土で下部は 2.5Y5/2暗灰黄色粘土
5. 2.5Y5/6 黄褐色粘土
6. 5 層の砂質土

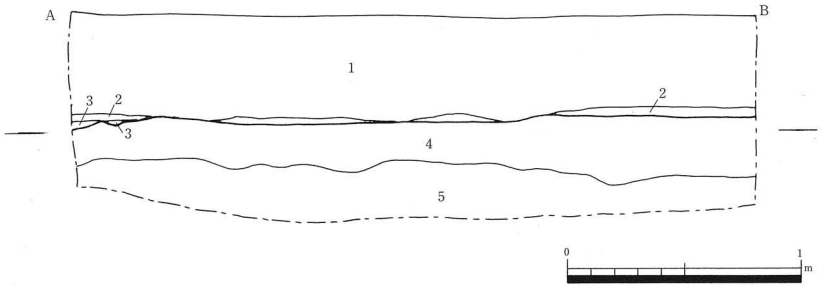
第53図　2005-01地点南壁断面図



第54図　2005-01地点　トレンチ全景、南壁断面写真

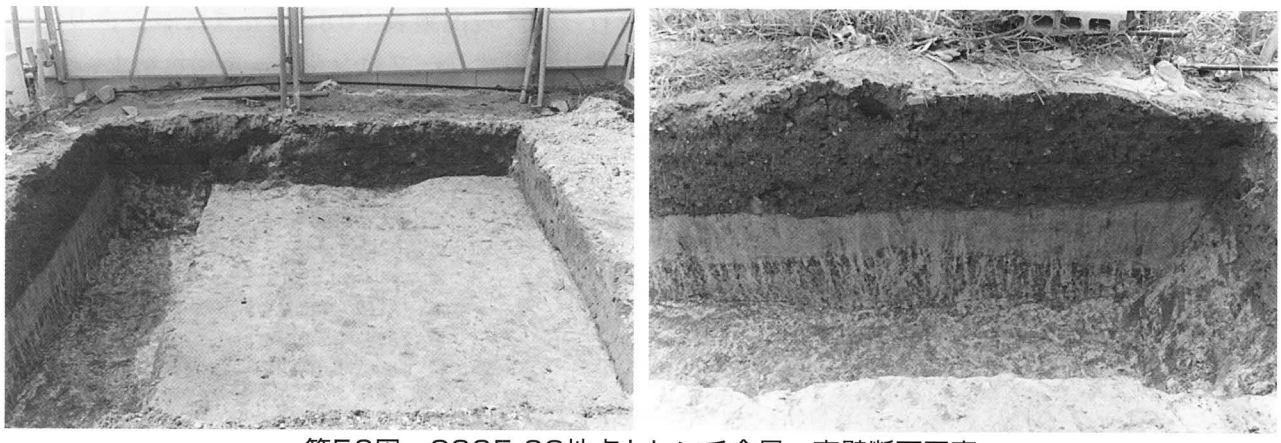
２００５－０８地点（板原町3丁目240番１、241番　平成17年9月20日調査）

遺跡の南端に位置し、敷地の一部が遺跡に含まれる。長屋立住宅建設に先立つ調査である。トレンチを設定し重機にて掘削を行った。現地表土宅地造成時の盛土で、下層に数cmの旧耕土が部分的にみられる。旧耕土下層には旧床土がトレンチの端でわずかに認められる。この下層は地山の浅黄色シルトで下層にいくほど粘性が強い。最下層は灰白色粘土であった。浅黄色シルトを精査すると、杭跡が数ケ所認められたが埋土は上層の耕土と同じ土であった。従来の近隣調査では、耕土及びその下層は削平を受けてなくなっている場合が多かったが、今回のように耕土がなくなっている場合はその下層が遺構面である可能性がある。遺構・遺物は認められない。断面実測図作製、写真撮影を行い調査終了とした。



1. 10YR5/3 にぶい黄褐色砂礫（宅地造成時盛土）
2. 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色土（旧耕土）
3. 2.5Y5/3 黄褐色土（旧床土）
4. 2.5Y1/4 浅黄色シルト（下部にいくに従って粘性が強くなる。部分的に 10YR6/8 明黄褐色粘土を含む。）
5. 10YR8/1 灰白色粘土（10YR5/6 黄褐色粘土とマンガン粒を多く含む）

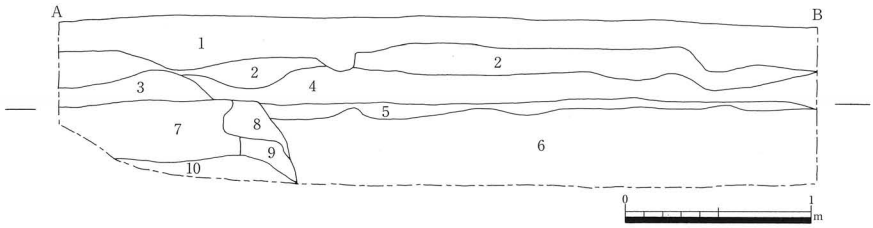
第55図　2005-08地点東壁断面図



第56図　2005-08地点トレンチ全景、東壁断面写真

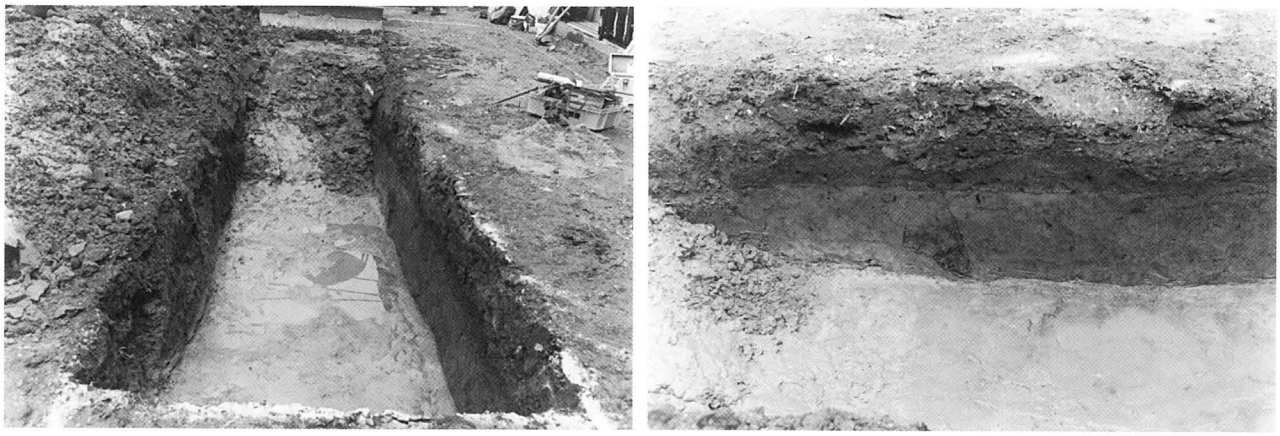
２００５－１１地点（我孫子１丁目505－6　平成17年11月14日調査）

遺跡の東端に位置する。個人住宅建設に伴い杭工事が実施されることとなったため、確認調査を実施した。敷地のほぼ中央にトレンチを設定し重機と人力により掘削を行った。現地表土とその下層は宅地造成時の盛土であった。その下層は、旧耕土、旧床土で、床土の一部を切ってトレンチ東から1.1m付近で灰オリーブ粘土を肩として流路が認められる。流路内はにぶい黄褐色砂で湧水がある。遺物は全く認められない。旧床土を切る肩であるので、比較的新しい流路であろう。平面断面実測図の作製、写真撮影を行い、調査終了とした。



1. 2.5Y4/4 オリーブ褐色土（盛土。ワラ、ガラスなど含む）
2. 2.5Y4/2 暗灰黄色土（盛土）
3. 5Y2/1 黒色土（旧耕土）
4. 2.5Y3/1 黒褐色土（炭混じる）
5. 10YR4/6 褐色土（旧床土）
6. 10YR4/3 にぶい黄褐色砂
7. 5Y4/2 灰オリーブ粘質土
8. 2.5Y5/6 黄褐色粘土
9. 2.5Y5/1 黄灰色土（下部は 10YR3/4 暗褐色砂）
10. 2.5Y5/2 暗灰黄色粘質土

第57図　2005-11地点西壁断面図

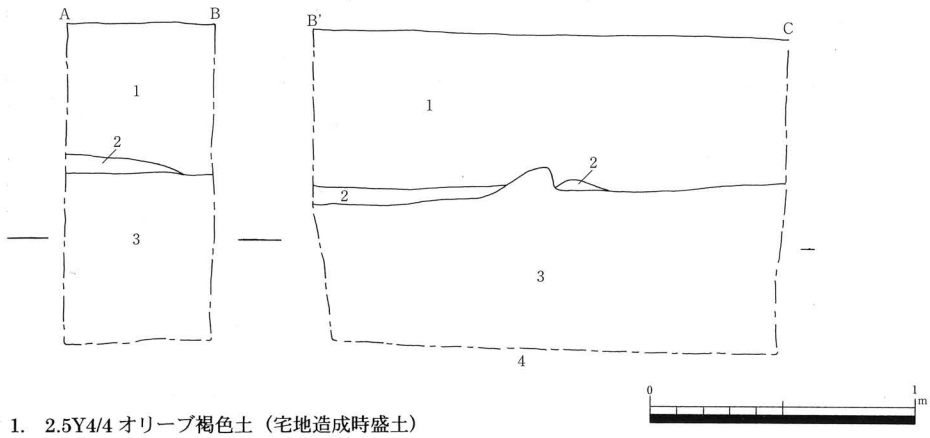


第58図　2005-11地点トレンチ全景、西壁断面写真

板原遺跡は、本市板原を中心とし、東南部では和泉市肥子町にまたがる遺跡である。国道26号線の整備に伴う調査により縄文時代の流路や鎌倉時代の掘立柱跡などを検出している。その後の調査では明確な遺構の検出はみられなかったが、昨年度の調査で瓦器椀小片・羽釜小片の出土とともに、中世における耕作状況がうかがえる素掘小溝群が検出された。今年度は、個人住宅について確認調査を実施した。

２００５－０９地点（板原町2丁目1009－4　平成17年10月12日調査）

遺跡の西端に位置する。個人住宅建設に先立ち確認調査を実施した。敷地南端にトレンチを設定し重機と人力により掘削を行った。現地表土から60cmは宅地造成時の盛土で部分的に旧耕土が認められる。下層は明黄褐色粘土が60cm以上堆積し、下部になるに従って粘性が強くなる。この下層は黒褐色粘土である。遺構・遺物は認められない。平面断面実測図の作製、写真撮影を行い、調査終了とした。



1. 2.5Y4/4 オリーブ褐色土（宅地造成時盛土）
2. 2.5Y3/1 黒褐色土（旧耕土）
3. 10YR7/6 明黄褐色粘土（下部にいくに従って粘性が強くなる。部分的に 10YR6/1 褐灰色粘土が混じる。）
4. 10YR3/2 黒褐色粘土

第59図　2005-09地点トレンチ断面図

第60図　2005-09地点トレンチ全景、北壁断面写真

表2　２００５－０３地点出土遺物観察表

遺物番号	器　種	出土地点	法量（復元）cm	技法の特徴	色調・胎土・焼成	備　考
1	瓦器碗	機械掘削	口径 － 残高 3.1 高台径 (4.0) 高台高 0.5	外面 ナデ　高台貼付 内面 ヘラケズリ	外面 灰色 内面 〃 密 良	13世紀
2	須恵器甕	〃	口径 － 残高 11.2 底径 －	外面 平行タタキ 内面 同心円タタキ	外面 灰色 内面 灰白色 密 良	古墳
3	弥生土器 壺	〃	口径 － 残高 10.7 底径 －	外面 タタキのちハケ 内面 ハケ	外面 淡橙色 内面 〃 密 良	後期
4	弥生土器 壺	〃	口径 － 残高 9.0 底径 －	外面 表面剥離　簾状紋の痕跡あり 内面 表面剥離	外面 淡黄色 内面 〃 密 良	中期
5	弥生土器 壺	〃	口径 (21.0) 残高 6.8 底径 －	外面 口縁部、竹管円形浮紋　体部簾状紋 内面 表面剥離	外面 浅黄橙色 内面 〃 密 良	中期
6	弥生土器 壺	〃	口径 (21.2) 残高 6.5 底径 －	外面 口縁部簾状紋　体部簾状紋 内面 ヨコナデ	外面 淡黄色 内面 〃 密 良	中期
7	弥生土器 壺	〃	口径 (26.4) 残高 8.0 底径 －	外面 表面剥離　口縁部円形浮紋貼付 内面 ナデ	外面 浅黄色 内面 〃 密 良	中期
8	弥生土器 壺	〃	口径 (28.4) 残高 7.3 底径 －	外面 ナデのち口縁部凹線紋 内面 表面剥離	外面 淡黄色 内面 〃 密 良	中期
9	弥生土器 甕	〃	口径 (15.0) 残高 5.5 底径 －	外面 口縁部・頸部ヨコナデ　体部ハケ 内面 体部粗いハケ	外面 灰白色 内面 〃 密 良	中期
10	弥生土器 甕	〃	口径 (26.0) 残高 3.5 底径 －	外面 口縁部ヨコナデ 内面 ナデ	外面 淡黄色 内面 〃 密 良	中期
11	弥生土器 甕	〃	口径 (25.4) 残高 7.5 底径 －	外面 口縁部ヨコナデ　体部ハケ 内面 体部ハケ	外面 灰白色 内面 〃 密 良	中期
12	弥生土器 甕	〃	口径 (35.2) 残高 7.4 底径 －	外面 口縁部ヨコナデ　ミガキ 内面 ナデ	外面 褐灰色 内面 〃 密 良	中期
13	弥生土器 高坏	〃	口径 － 残高 9.8 底径 －	外面 ケズリ？　表面剥離 内面 シボリ目痕残す	外面 浅黄色 内面 灰白色 密 良	中期
14	弥生土器 台付鉢	〃	口径 － 残高 6.0 底径 (8.8)	外面 ナデのち凹線紋　五カ所円形の透かし 内面 表面剥離	外面 灰白色 内面 〃 やや粗 良	中期
15	弥生土器 甕	〃	口径 (5.6) 残高 3.3 底径 －	外面 表面剥離 内面 表面剥離	外面 灰白色 内面 〃 密 良	中期
16	弥生土器 甕	〃	口径 － 残高 4.0 底径 (2.6)	外面 ケズリ　スス付着 内面 表面剥離	外面 淡橙色 内面 〃 密 良	中期
17	弥　生 石包丁	〃	残存長 7.0 巾 4.2 厚 0.75	外面 内面	外面 内面	中期
18	弥生土器 壺	〃	口径 － 残高 2.6 底径 (2.2)	外面 ミガキ 内面 ナデ	外面 灰白色 内面 〃 密 良	後期
19	弥生土器 壺	〃	口径 － 残高 4.9 底径 (6.5)	外面 板ナデ 内面 指オサエのちナデ	外面 灰白色 内面 〃 密 良	中期
20	弥生土器 壺	〃	口径 － 残高 3.4 底径 (9.4)	外面 ハケ 内面 ナデ	外面 灰白色 内面 〃 密 良	中期
21	弥生土器 壺	〃	口径 － 残高 2.0 底径 (6.0)	外面 板ナデ 内面 表面剥離	外面 灰白色 内面 〃 密 良	中期
22	弥生土器 壺	〃	口径 － 残高 3.0 底径 (8.4)	外面 表面剥離 内面 表面剥離	外面 灰白色 内面 〃 密 良	中期

遺物番号	器　種	出土地点	法量（復元）cm	技法の特徴	色調・胎土・焼成	備　考
23	弥生土器 壺	〃	口径　－ 残高　2.8 底径　(9.2)	外面　工具痕残す 内面　ナデ	外面　灰白色 内面　〃 密 良	中期
24	弥生土器 壺	〃	口径　－ 残高　1.6 底径　(7.6)	外面　表面剥離　黒斑アリ 内面　表面剥離	外面　灰白色 内面　〃 密 良	中期
25	弥生土器 壺	〃	口径　－ 残高　3.2 底径　(7.5)	外面　ケズリ？　表面剥離 内面　表面剥離	外面　橙色 内面　明褐灰色 密 良	中期
26	弥生土器 壺	〃	口径　(6.6) 残高　3.2 底径　－	外面　板ナデ 内面　ナデ	外面　淡黄色 内面　〃 密 良	中期
27	弥生土器 壺	〃	口径　－ 残高　4.2 底径　(6.6)	外面　板ナデ 内面　表面剥離	外面　灰白色 内面　〃 密 良	中期
28	弥生土器 壺	〃	口径　－ 残高　1.9 底径　(11.7)	外面　表面剥離 内面　表面剥離	外面　褐灰色 内面　にぶい黄橙色 密 良	中期
29	弥生土器 壺	〃	口径　－ 残高　3.6 底径　(8.0)	外面　ケズリ 内面　ハケ	外面　褐灰色 内面　にぶい黄橙色 密 良	中期
30	弥生土器 壺	〃	口径　－ 残高　2.5 底径　(7.0)	外面　表面剥離 内面　指オサエのちナデ	外面　灰黄色 内面　浅黄色 密 良	中期
31	弥生土器 壺	〃	口径　－ 残高　3.6 底径　(8.1)	外面　ヘラケズリ 内面　ナデ	外面　にぶい黄橙色 内面　褐灰色 密 良	中期
32	弥生土器 甕	〃	口径　－ 残高　4.0 底径　(5.9)	外面　表面剥離 内面　表面剥離	外面　にぶい黄橙色 内面　黒色 密 良	中期
33	生駒西麓 弥生土器	あげ土	口径　－ 残高　1.4 底径　(3.8)	外面　表面剥離 内面　表面剥離	外面　にぶい褐色 内面　にぶい黄褐色 やや粗　角閃石含む 不良	中期
34	弥生土器 壺	〃	口径　(9.6) 残高　1.8 底径　－	外面　表面剥離 内面　表面剥離	外面　橙色 内面　灰色 密 良	中期
35	弥生土器 壺	〃	口径　(17.5) 残高　1.9 底径　－	外面　口縁部簾状紋、頸部以下ヨコナデ 内面　ナデ	外面　浅黄橙色 内面　灰白色 密 良	中期
36	弥生土器 壺	〃	口径　(17.4) 残高　5.9 底径　－	外面　口縁部ヨコナデ　頸部ハケ 内面　表面剥離	外面　橙色 内面　〃 やや粗 良	中期
37	弥生土器 壺	〃	口径　－ 残高　0.8 底径　(4.8)	外面　表面剥離 内面　表面剥離	外面　黒褐色 内面　灰白色 密 良	中期
38	弥生土器 壺	〃	口径　－ 残高　2.1 底径　(6.4)	外面　指オサエ 内面　表面剥離	外面　浅黄橙色 内面　〃 密 やや不良	中期
39	弥生土器 壺	〃	口径　－ 残高　2.3 底径　(7.8)	外面　指オサエ 内面　表面剥離	外面　黄灰色 内面　灰黄色 密 良	中期
40	弥生土器 壺	〃	口径　－ 残高　1.8 底径　(9.6)	外面　表面剥離 内面　表面剥離	外面　橙色 内面　灰色 密 良	中期
41	弥生土器 壺	〃	口径　－ 残高　1.6 底径　(7.6)	外面　表面剥離 内面　表面剥離	外面　にぶい橙色 内面　〃 密 やや不良	中期
42	弥生土器 壺	〃	口径　－ 残高　1.9 底径　(7.4)	外面　表面剥離 内面　表面剥離	外面　浅黄橙色 内面　黄灰色 密 良	中期
43	弥生土器 壺	〃	口径　－ 残高　3.5 底径　(9.4)	外面　ケズリ？表面剥離 内面　指オサエ	外面　浅黄橙色 内面　灰白色 やや粗 やや不良	中期
44	弥生土器 壺	〃	口径　－ 残高　3.7 底径　(10.2)	外面　表面剥離 内面　表面剥離	外面　浅黄橙色 内面　〃 密 良	中期
45	弥生土器 壺	〃	口径　－ 残高　2.2 底径　(4.0)	外面　表面剥離 内面　ナデ	外面　灰白色 内面　橙色 密 良	後期

遺物番号	器　種	出土地点	法量（復元）cm	技法の特徴	色調・胎土・焼成	備　考
46	弥生土器 壺	〃	口径　－ 残高　2.1 底径　(3.0)	外面 ミガキ 内面 ナデ	外面　灰色 内面　淡黄色 密 良	後期
47	弥生土器 甕	〃	口径　－ 残高　2.6 底径　(6.6)	外面 表面剥離 内面 表面剥離	外面　灰白色 内面　〃 密 良	中期
48	弥生土器 甕	〃	口径　－ 残高　4.0 底径　(6.3)	外面 表面剥離 内面 表面剥離	外面　灰黄褐色 内面　〃 0.5mm以下の砂多数含む 良	中期
49	弥生土器 壺	〃	口径　(28.2) 残高　5.0 底径　－	外面 口縁部凹線紋　頸部表面剥離 内面 ヨコナデ	外面　淡黄色 内面　〃 密 良	中期
50	弥生土器 鉢	〃	口径　(30.8) 残高　4.8 底径　－	外面 口縁部ヨコナデ　体部ナデ　スス付着 内面 指オサエのちナデのちハケ	外面　灰白色 内面　灰黄色 密 良	中期
51	弥生土器 鉢	〃	口径　(37.2) 残高　4.2 底径　－	外面 口縁部、体部簾状紋 内面 表面剥離	外面　灰黄褐色 内面　橙色 密 良	中期
52	弥生土器 甕	〃	口径　(33.6) 残高　8.0 底径　－	外面 口縁部ヨコナデ　表面剥離 内面 ナデ	外面　淡黄色 内面　〃 密 良	中期
53	生駒西麓 弥生土器 高　坏	〃	口径　－ 残高　6.4 底径　(9.5)	外面 端部ヨコナデ　面取り 内面 ナデ、しぼり痕残す	外面　褐灰色 内面　〃 密　角閃石含む 良	中期
54	弥生土器 高坏	〃	口径　－ 残高　6.4 底径　－	外面 坏部ナデ、脚部、ヘラケズリ 内面 ナデ、しぼり痕残す	外面　灰白色 内面　〃 密 良	中期
55	弥生土器 蛸　壺	〃	口径　(4.0) 器高　10.0 底径　－	外面 表面剥離 内面 表面剥離	外面　橙色 内面　〃 密 良	中期
56	弥生土器 甕	〃	口径　－ 残高　3.8 底径　(6.3)	外面 表面剥離　スス付着 内面 表面剥離	外面　灰白色 内面　〃 密 良	中期
57	弥生土器 甕	〃	口径　－ 残高　4.9 底径　(6.0)	外面 表面剥離 内面 表面剥離	外面　灰白色 内面　明褐灰色 密 良	中期
58	弥生土器 甕	〃	口径　－ 残高　6.7 底径　(7.9)	外面 ケズリ 内面 表面剥離	外面　明褐灰 内面　灰黄褐 密 良	中期
59	尖突器	〃	残存長　4.4 巾　2.1 厚　0.9	外面 内面	外面 内面	未製品
60	弥生土器 壺	側溝	口径　(15.0) 残高　14.0 底径　－	外面 口縁部ヨコナデ、ゆるい凹線 内面 口縁部ヨコナデ	外面　にぶい黄橙色 内面　橙色 1mm以下の砂を含む 良	中期
61	弥生土器 甕	〃	口径　(14.4) 残高　6.3 底径　－	外面 口縁部ヨコナデ　体部削りスス付着 内面 ナデ	外面　灰白色 内面　黄灰色 1mm以下の砂多数含む 良	中期
62	弥生土器 甕	〃	口径　(20.0) 残高　8.5 底径　－	外面 口縁部ヨコナデ　体部ハケか？ 後ヘラ削り、口縁部からスス付着 内面 口縁部ヨコナデ　体部ハケ	外面　にぶい橙色 内面　〃 密 良	中期
63	弥生土器 甕	〃	口径　(20.2) 残高　3.2 底径　－	外面 口縁部ヨコナデ 内面 表面剥離	外面　にぶい橙色 内面　橙色 1mm以下の砂多数含む 良	中期
64	弥生土器 甕	〃	口径　(29.0) 残高　5.8 底径　－	外面 口縁部ヨコナデ、体部ハケ 内面 頸部ハケ調整、体部ハケのち指オサエ	外面　にぶい橙色 内面　にぶい黄橙色 1mm以下の砂多数含む 良	中期
65	弥生土器 甕	〃	口径　31.0 残高　7.5 底径　－	外面 口縁部ヨコナデ、体部ハケ 内面 口縁部ヨコナデ　体部ナデの後ハケ	外面　浅黄橙色 内面　〃 密 良	中期
66	弥生土器 甕	〃	口径　(38.5) 残高　6.0 底径　－	外面 口縁部ヨコナデ　体部ナデ、スス付着 内面 口縁部ヨコナデ、体部ナデ	外面　灰黄色 内面　〃 密 良	中期
67	弥生土器 甕	〃	口径　(43.6) 残高　9.5 底径　－	外面 口縁部ヨコナデ、ハケのち頸部ヨコナデ 内面 ハケのち口縁部ヨコナデ	外面　にぶい黄橙色 内面　〃 密 良	中期
68	弥生土器 甕	〃	口径　(24.6) 残高　6.0 底径　－	外面 口縁部ヨコナデ、体部ナデのちヘラミガキ 内面 ナデ	外面　明黄褐色 内面　灰白色 1mm以下の砂多数含む 良	中期

遺物番号	器　種	出土地点	法量（復元）cm	技法の特徴	色調・胎土・焼成	備　考
69	弥生土器 鉢	〃	口径　(11.2) 残高　5.8 底径　－	外面 紐孔有　口縁部ヨコナデ、体部ヘラミガキ 内面 体部ハケ	外面　灰白色 内面　にぶい橙色 密 良	中期
70	弥生土器 鉢	〃	口径　(30.8) 残高　5.0 底径　－	外面 口縁部ヨコナデのちキザミ目　体部ナデのち凸帯貼付、先端部キザミ目 内面 ナデ	外面　浅黄橙色 内面　〃 密 良	中期
71	弥生土器 鉢	〃	口径　(39.6) 残高　8.1 底径　－	外面 口縁部ヨコナデ　体部ハケ 内面 ハケのちナデ	外面　灰白色 内面　〃 密 良	中期
72	弥生土器 壺	〃	口径　(18.8) 残高　3.8 底径　－	外面 ナデ 内面 ナデ	外面　にぶい黄橙色 内面　橙色 1㎜以下の砂多数含む 良	中期
73	弥生土器 壺	〃	口径　(20.2) 残高　4.3 底径　－	外面 口縁部強いヨコナデ、体部ナデ　口縁部紐孔有 内面 ナデ	外面　にぶい橙色 内面　灰白色 1㎜以下の砂多数含む 良	中期
74	弥生土器 壺	〃	口径　(22.4) 残高　11.5 底径　－	外面 ヨコナデ　スス付着 内面 ヨコナデ	外面　灰白色 内面　浅黄橙色 1㎜以下の砂多数含む 良	中期
75	弥生土器 壺	〃	口径　(20.0) 残高　7.5 底径　－	外面 口縁部、簾状紋の後、円形浮紋　体部簾状紋 内面 口縁部上面、烈点紋　体部ナデ	外面　灰白色 内面　〃 密 良	中期
76	弥生土器 壺	〃	口径　(24.0) 残高　8.5 底径　－	外面 口縁部ヨコナデのち簾状紋を施した後、円形浮紋貼付　体部簾状紋 内面 ヨコナデ、体部ナデ	外面　にぶい黄橙色 内面　〃 密 やや粗	中期
77	弥生土器 壺	〃	口径　(21.8) 残高　8.0 底径　－	外面 口縁部、ナデのち簾状紋　体部、ナデのち簾状紋 内面 ハケのちナデ	外面　灰白色 内面　灰黄色 1～2㎜の砂多数含む 良	中期
78	弥生土器 器台	〃	口径　(24.0) 残高　8.0 底径　－	外面 口縁部ヨコナデ調整後、凹線紋四条　体部、ナデ後凹線紋 内面 ハケのちヘラケズリ	外面　にぶい黄橙色 内面　灰白色 1～2㎜の砂多数含む 良	中期
79	生駒西麓 弥生土器 壺	〃	口径　－ 残高　7.0 底径　－	外面 簾状紋 内面 ハケ調整のち円形浮紋貼り付け	外面　明褐灰色 内面　褐灰色 密　角閃石を含む 良	中期 北河内
80	弥生土器 壺	〃	口径　(13.6) 残高　9.9 底径　－	外面 口縁部、ヨコナデのち擬似流水紋 内面 表面剥離	外面　灰白色 内面　〃 密 良	中期
81	弥生土器 壺	〃	口径　(24.6) 残高　4.6 底径　－	外面 口縁部ヨコナデ　頸部ハケ調整後　口縁部波状紋 内面 表面剥離	外面　灰白色 内面　〃 1㎜以下の砂多数含む 良	中期
82	弥生土器 壺	〃	口径　(26.0) 残高　10.2 底径　－	外面 口縁部から頸部、ハケのちヨコナデ調整後波状紋 内面 口縁部ヨコナデ、体部タテハケのちヨコハケ	外面　灰白色 内面　〃 1㎜前後の砂多数含む 良	中期
83	弥生土器 壺	〃	口径　(26.0) 残高　8.4 底径　－	外面 口縁部、ハケ調整のち、波状紋二条施した後、烈点紋　体部ハケ調整のち簾状紋 内面 ハケ調整のち口縁部ヨコナデ	外面　灰黄色 内面　灰白色 1㎜以下の砂多数含む 良	中期
84	弥生土器 壺	〃	口径　(32.8) 残高　10.0 底径　－	外面 口縁部ハケ、頸部下ヨコナデ、以下ナデ 内面 ナデ	外面　灰白色 内面　〃 密 良	中期
85	弥生土器 壺	〃	口径　(38.6) 残高　6.8 底径　－	外面 口縁部ハケのちヨコナデ、頸部以下、ナデ 内面 口縁部ヨコナデ、頸部以下ナデ	外面　灰白色 内面　にぶい黄橙色 1～2㎜の砂多数含む 良	中期
86	弥生土器 壺	〃	口径 残高　2.5 底径　(7.2)	外面 ミガキ 内面 ハケ	外面　黒褐色 内面　〃 密 良	?
87	弥生土器 壺	〃	口径　－ 残高　3.5 底径　(8.4)	外面 ケズリ 内面 底部指オサエ、体部ナデ	外面　褐灰色 内面　〃 密 良	中期
88	弥生土器 壺	〃	口径　－ 残高　2.3 底径　(3.8)	外面 表面剥離 内面 表面剥離	外面　橙色 内面　〃 密 良	中期
89	弥生土器 壺	〃	口径　－ 残高　5.8 底径　(8.0)	外面 ミガキ 内面 表面剥離	外面　灰白色 内面　〃 粗 良	中期
90	弥生土器 壺	〃	口径　－ 残高　5.2 底径　(9.0)	外面 ミガキ 内面 表面剥離	外面　灰白色 内面　〃 やや粗 やや不良	中期
91	弥生土器 甕	〃	口径　－ 残高　3.1 底径　(7.4)	外面 表面剥離 内面 表面剥離	外面　灰白色 内面　〃 1㎜以下の砂多数含む 良	中期

遺物番号	器　種	出土地点	法量（復元）cm	技法の特徴	色調・胎土・焼成	備　考
92	弥生土器 甕	〃	口径　－ 残高　3.9 底径　(7.8)	外面 表面剥離 内面 ハケ	外面　灰白色 内面　にぶい黄橙色 密 良	中期
93	弥生土器 甕	〃	口径　－ 残高　4.7 底径　8.0	外面 表面剥離、スス付着 内面 ナデ？	外面　淡黄色 内面　淡黄色 密 良	中期
94	弥生土器 甕	〃	口径　－ 残高　6.7 底径　(4.6)	外面 ケズリ　スス少量付着 内面 ハケ	外面　明褐灰色 内面　にぶい黄橙色 やや粗 良	中期
95	弥生土器 甕	〃	口径　－ 残高　7.0 底径　(10.0)	外面 ケズリ 内面 ハケ、底部、指オサエ	外面　灰白色 内面　〃 密 良	中期
96	弥生土器 高坏脚	〃	口径　－ 残高　2.8 底径　(17.4)	外面 脚台下部ヨコナデ、他、表面剥離 内面 ケズリ	外面　灰白色 内面　にぶい黄橙色 1mm以下の砂多数含む 良	中期
97	弥生土器 鉢脚部	〃	口径　－ 残高　7.8 底径　－ 脚径　(16.8)	外面 穿孔５カ所　その下凹線紋？脚部へラミガキ　脚端部、ヨコナデ 内面 鉢部と脚部、円板充填による接合　鉢部へラミガキ脚部、絞り目残し面取り	外面　灰白色 内面　灰黄色 1mm以下の砂多数含む 良	中期
98	弥生土器 高坏脚	〃	口径　－ 残高　9.3 底径　(4.8)	外面 面取り状のケズリ 内面 シボリ目痕残す	外面　浅黄橙色 内面　〃 粗 良	中期
99	弥生土器 蛸壺底部	〃	口径　－ 残高　2.8 底径　6.0	外面 指オサエ 内面 指オサエ	外面　灰白色 内面　黄灰色 1mm以下の砂多数含む 良	中期
100	弥　生 石包丁	〃	残存長　8.0 巾　5.4 厚　0.9	外面 内面	外面 内面	
101	弥生土器 壺	黒色土上 褐灰色土	口径　(16.8) 残高　4.5 底径　－	外面 表面剥離 内面 表面剥離	外面　にぶい橙色 内面　〃 1mm以下の砂多数含む 良	中期
102	弥生土器 壺	〃	口径　(16.4) 残高　3.2 底径　－	外面 口縁部ヨコナデ？ 表面剥離 内面 表面剥離	外面　にぶい黄橙色 内面　灰白色 1mm以下の砂多数含む 良	中期
103	弥生土器 壺	〃	口径　(23.2) 残高　2.4 底径　－	外面 口縁部、ヨコナデのち凹線紋三条 内面 ヨコナデ	外面　にぶい黄橙色 内面　灰白色 1mm以下の砂多数含む 良	中期
104	生駒西麓 弥生土器 壺	〃	口径　(14.6) 残高　7.2 底径　－	外面 口縁部わずかに櫛描紋の痕跡　体部わずかに簾状紋の痕跡 内面 表面剥離	外面　明褐色 内面　灰黄褐色 角閃石含む。やや粗 良	中期
105	弥生土器 壺	〃	口径　(24.6) 残高　2.3 底径　－	外面 口縁部ヨコナデ　以下ナデ 内面 表面剥離	外面　灰白色 内面　〃 1～2mmの砂多数含む 良	中期
106	弥生土器 壺	〃	口径　(24.0) 残高　2.9 底径　－	外面 口縁部体部簾状紋 内面 表面剥離	外面　灰黄褐色 内面　〃 1mm以下の砂多数含む	中期
107	弥生土器 壺	〃	口径　(24.0) 残高　2.4 底径　－	外面 口縁部簾状紋のち円形浮紋貼り付け 内面 烈点紋、一部残し表面剥離	外面　灰黄褐色 内面　〃 1mm以下の砂多数含む 良	中期
108	弥生土器 壺	〃	口径　(19.4) 残高　1.6 底径　－	外面 ヨコナデ 内面 ヨコナデ	外面　にぶい黄橙色 内面　〃 1mm以下の砂多数含む 良	中期
109	弥生土器 壺	〃	口径　(26.0) 残高　3.7 底径　－	外面 表面剥離 内面 表面剥離	外面　にぶい黄橙色 内面　〃 1mm以下の砂多数含む 良	中期
110	弥生土器 高　坏	〃	口径　(14.8) 残高　4.0 底径　－	外面 口縁部ヨコナデ　体部ミガキ？ 内面 表面剥離　一部、スス付着	外面　にぶい黄橙色 内面　にぶい橙色 1mm～2mmの砂多数含む 良	中期
111	弥生土器 鉢	〃	口径　(17.2) 残高　5.2 底径　－	外面 口縁部凹線紋、体部簾状紋　頸部、紐穴有り 内面 粘土紐の継ぎ痕残す　表面剥離	外面　にぶい橙色 内面　灰白色 1mm以下の砂多数含む 良	中期
112	弥生土器 鉢	〃	口径　(33.8) 残高　6.9 底径　－	外面 口縁部・体部の一部に簾状紋が認められる以外、表面剥離 内面 表面剥離	外面　褐灰色 内面　にぶい橙色 1mm以下の砂多数含む 良	中期
113	弥生土器 甕	〃	口径　(27.4) 残高　3.0 底径　－	外面 口縁部ヨコナデ　体部ハケ 内面 ナデ	外面　にぶい橙色 内面　〃 1mm以下の砂多数含む 良	中期
114	弥生土器 甕	〃	口径　(20.0) 残高　2.9 底径　－	外面 表面剥離 内面 表面剥離	外面　灰白色 内面　〃 1mm前後の砂多数含む 良	中期

遺物番号	器　種	出土地点	法量（復元）cm	技法の特徴	色調・胎土・焼成	備　考
115	弥生土器 甕	〃	口径　－ 残高　4.5 底径　－	外面　タタキ 内面　表面剥離	外面　にぶい橙色 内面　褐灰色 1㎜以下の砂多数含む 良	後期
116	弥生土器 壺	〃	口径　－ 残高　3.3 底径　4.0	外面　ナデ 内面　ハケ	外面　にぶい黄橙色 内面　灰白色 密 良	中期
117	弥生土器 壺	〃	口径　－ 残高　2.1 底径　(6.0)	外面　指オサエ後　板ナデ 内面　強いヨコナデ	外面　灰白色 内面　にぶい黄橙色 密 良	中期
118	弥生土器 壺	〃	口径　－ 残高　2.3 底径　(8.8)	外面　指オサエ 内面　表面剥離	外面　灰黄褐色 内面　浅黄橙色 密 良	中期
119	弥生土器 壺	〃	口径　－ 残高　2.6 底径　(9.3)	外面　ハケ 内面　ナデ	外面　灰黄色 内面　〃 1mm～3mmの砂多数含む 良	中期
120	弥生土器 壺	〃	口径　－ 残高　3.9 底径　(7.4)	外面　ヘラケズリ 内面　表面剥離　わずかに指オサエの痕跡	外面　灰白色 内面　〃 0.5mm前後の砂多数含む 良	中期
121	弥生土器 壺	〃	口径　－ 残高　3.6 底径　(8.2)	外面　ヘラケズリのちミガキ 内面　ハケ調整	外面　灰黄褐色 内面　灰白色 1～2mm前後の砂多数含む 良	中期
122	弥生土器 壺	〃	口径　－ 残高　2.4 底径　(8.0)	外面　表面剥離 内面　ヨコナデ　底部指オサエ	外面　灰白色 内面　灰白色 密 良	中期
123	弥生土器 壺	〃	口径　－ 残高　2.4 底径　(6.0)	外面　ケズリのちナデ？ 内面　ナデ	外面　暗灰色 内面　〃 1㎜前後の砂多数含む 良	中期
124	弥生土器 壺	〃	口径　－ 残高　3.0 底径　(9.4)	外面　表面剥離 内面　表面剥離	外面　灰黄褐色 内面　〃 1～2㎜の砂多数含む 良	中期 黒斑あり
125	弥生土器 壺	〃	口径　－ 残高　3.0 底径　(9.4)	外面　表面剥離 内面　表面剥離	外面　灰黄褐色 内面　浅黄橙色 密 良	中期
126	弥生土器 壺	〃	口径　－ 残高　3.0 底径　(8.6)	外面　表面剥離 内面　表面剥離	外面　灰色 内面　〃 2㎜前後の砂多数含む 良	中期
127	弥生土器 壺	〃	口径　－ 残高　4.1 底径　(10.0)	外面　ヘラミガキ 内面　ナデ	外面　灰白色 内面　にぶい黄橙色 密 良	中期
128	弥生土器 壺	〃	口径　－ 残高　10.0 底径　(13.4)	外面　指オサエのちナデ 内面　ハケのちナデ	外面　にぶい黄橙色 内面　灰白色 2㎜前後の砂多数含む 良	中期
129	弥生土器 壺	〃	口径　－ 残高　8.0 底径　(10.6)	外面　分割ヘラミガキ 内面　ハケ調整	外面　灰黄色 内面　灰白色 1～2㎜の砂多数含む 良	中期
130	弥生土器 壺	〃	口径　(11.5) 残高　3.7 底径　－	外面　表面剥離 内面　表面剥離	外面　にぶい黄橙色 内面　灰白色 密 良	中期
131	弥生土器 甕	〃	口径　－ 残高　2.4 底径　(8.0)	外面　指押え 内面　表面剥離	外面　灰黄褐色 内面　灰白色 1㎜以下の砂多数含む 良	中期 底部穿孔 有り
132	弥生土器 甕	〃	口径　－ 残高　4.6 底径　(5.4)	外面　板ナデ？　一部分スス付着 内面　表面剥離	外面　灰黄褐色 内面　〃 2㎜前後の砂多数含む 良	中期
133	弥生土器 壺	〃	口径　－ 残高　4.4 底径　(4.8)	外面　表面剥離 内面　指オサエ	外面　灰白色 内面　褐灰色 密 良	後期
134	弥生土器 甕	〃	口径　－ 残高　4.6 底径　(5.8)	外面　表面剥離 内面　表面剥離	外面　灰黄色 内面　灰色 2㎜前後の砂多数含む 良	中期
135	弥生土器 甕	〃	口径　－ 残高　3.3 底径　(8.0)	外面　表面剥離　スス付着？ 内面　表面剥離	外面　橙色 内面　灰白色 2～3mm前後の砂多数含む 良	中期
136	弥生土器 甕	〃	口径　－ 残高　3.0 底径　(5.9)	外面　ケズリ？ 内面　ナデ	外面　灰黄色 内面　明褐灰色 1㎜前後の砂多数含む 良	中期
137	弥生土器 甕	〃	口径　－ 残高　2.4 底径　(6.7)	外面　表面剥離 内面　表面剥離	外面　灰黄褐色 内面　〃 1㎜前後の砂多数含む 良	中期

遺物番号	器　種	出土地点	法量（復元）cm	技法の特徴	色調・胎土・焼成	備　考
138	弥生土器 甕	〃	口径　－ 残高　3.9 底径　(8.6)	外面 ハケ 内面 表面剥離	外面　にぶい黄橙色 内面　灰白色 0.5mm以下の砂多数含む 良	中期
139	生駒西麓 弥生土器 脚転用蓋	〃	口径　－ 残高　2.2 底径　14.0 9.9	外面 内面 スス付着	外面　暗灰黄色 内面　〃 角閃石 1mm以下の砂含む 良	中期
140	弥生土器 高坏	〃	口径　－ 残高　5.8 底径　(10.8)	外面 表面剥離　ミガキ？ 内面 右方向のケズリ	外面　にぶい黄橙色 内面　〃 1mm前後の砂多数含む 良	中期
141	弥生土器 高坏	〃	口径　－ 残高　13.2 底径　－	外面 表面剥離 内面 上部、円板充填痕あり　脚部絞り目痕　下部、右方向に面取り痕	外面　灰白色 内面 2mm前後の砂多数含む 良	中期
142	弥生土器 蛸壺底部	〃	巾　5.0 高　1.7 底径　－	外面 指オサエ 内面 指オサエ	外面　淡黄色 内面　〃 密 良	中期
143	弥　生 石包丁	〃	残存長　6.4 巾　4.6 厚　1.0	外面 内面	外面 内面	中期
144	弥生石鏃	〃	残存長　3.0 巾　1.8 厚　0.5	外面 内面	外面 内面	
145	弥生土器 甕	遺構 No.6	口径　－ 残高　3.0 底径　(7.6)	外面 ハケ調整 内面 表面剥離	外面　褐灰色 内面　灰白色 2mm以下の砂多数含む 良	中期
146	弥生土器 甕	遺構 No.7	口径　(14.6) 残高　1.7 底径　－	外面 表面剥離 内面 表面剥離	外面　褐灰色 内面　にぶい黄橙色 1mm以下の砂多数含む 良	中期
147	弥生土器 甕	遺構No.9	口径　(33.2) 残高　2.6 底径　－	外面 ヨコナデ 内面 ヨコナデ	外面　にぶい橙色 内面 密 良	中期
148	弥生土器 甕	遺構 No.11	口径　－ 残高　3.8 底径　(7.0)	外面 表面剥離　スス付着 内面 表面剥離	外面　灰黄色 内面　灰白色 1mm以下の砂多数含む 良	中期
149	弥生土器 甕	〃	口径　(20.0) 残高　2.7 底径　－	外面 表面剥離 内面 表面剥離	外面　灰白色 内面　灰白色 1mm以下の砂多数含む 良	中期
150	生駒西麓 弥生土器 甕	〃	口径　(26.8) 残高　1.8 底径　－	外面 ヨコナデ　スス付着 内面 ヨコナデ	外面　褐灰色 内面　〃 角閃石 1mm以下の砂多数含む 良	中期
151	弥生土器 甕	第2遺構面 精査時	口径　(14.0) 残高　3.0 底径　－	外面 口縁部ヨコナデ　体部タタキ？ 内面 ヨコナデ	外面　褐灰色 内面　にぶい黄橙色 1mm前後の砂多数含む 良	後期
152	弥生土器 甕	〃	口径　－ 残高　5.0 底径　－	外面 2条のヘラ描き沈線　表面剥離 内面 表面剥離	外面　にぶい褐色 内面　褐灰色 2～3mmの砂多数含む 良	前期
153	弥生土器 高坏	〃	口径　－ 残高　5.4 脚径　(5.4)	外面 表面剥離　坏部ミガキ　脚部五条のヘラ描き沈線 内面 表面剥離　円板充填で脚部と坏部を接合	外面　褐灰色 内面　〃 1mm以下の砂多数含む 良	中期
154	弥生土器 壺	〃	口径　－ 残高　2.4 底径　(5.0)	外面 ミガキ 内面 表面剥離	外面　灰黄褐色 内面　黄灰色 1～2mm以下の砂多数含む 良	後期
155	弥生土器 壺	〃	口径　－ 残高　3.2 底径　(5.6)	外面 表面剥離 内面 表面剥離	外面　橙色 内面　明褐灰色 1～2mm以下の砂多数含む 良	後期
156	弥生土器 甕	サブ トレンチ2	口径　(15.4) 残高　2.1 底径	外面 表面剥離 内面 表面剥離	外面　にぶい黄橙色 内面　灰白色 粗 良	中期
157	弥生土器 甕	〃	口径　(14.8) 残高　3.9 底径　－	外面 口縁部　ヨコナデ　体部ハケ 内面 体部ハケ	外面　にぶい黄橙色 内面　浅黄橙色 密 良	中期
158	弥生土器 甕	サブ トレンチ3	口径　(24.6) 残高　1.9 底径　－	外面 口縁部　ヨコナデ後キザミ目 内面 ヨコナデ	外面　にぶい黄橙色 内面　〃 1mm前後の砂多数含む 良	中期
159	弥生土器 高坏	〃	口径　－ 残高　3.3 底径　(17.6)	外面 表面剥離 内面 表面剥離	外面　灰白色 内面　灰黄褐色 1mm以下の砂多数含む 良	中期
160	弥生土器 甕	〃	口径　(30.8) 残高　4.0 底径　－	外面 ヨコナデ 内面 ヨコナデ	外面　浅黄橙色 内面　〃 密 良	中期

遺物番号	器　種	出土地点	法量（復元）cm	技法の特徴	色調・胎土・焼成	備　考
161	弥生土器 壺	黒色土	口径　14.6 残高　8.0 底径　－	外面　口縁部ヨコナデ　体部ナデ？ 内面　頸部指オサエ　体部ケズリ？	外面　灰白色 内面　粗 良	後期
162	生駒西麓 弥生土器 壺	〃	口径　(18.6) 残高　2.2 底径　－	外面　表面剥離　口縁部簾状紋 内面　表面剥離　口縁部円形浮紋を貼付け	外面　褐色 内面　〃 やや粗　角閃石含む 良	中期
163	弥生土器 壺	〃	口径　(27.0) 残高　6.9 底径　－	外面　口縁部簾状紋後　円形浮紋貼付け 内面　表面剥離	外面　暗灰黄色 内面　〃 1㎜以下の砂多数含む 良	中期
164	弥生土器 甕	〃	口径　(33.8) 残高　3.8 底径　－	外面　表面剥離 内面　表面剥離	外面　灰白色 内面　橙色 1㎜以下の砂多数含む 良	中期
165	弥生土器 壺	〃	口径　(26.8) 残高　3.8 底径　－	外面　ヨコナデ調整のち波状紋と簾状紋 内面　口縁部ヨコナデ　体部ナデ	外面　にぶい橙色 内面　橙色 1㎜以下の砂多数含む 良	中期
166	弥生土器 鉢	〃	口径　(24.0) 残高　7.4 底径　－	外面　表面剥離　口縁部と体部に簾状紋？の痕跡あり 内面　表面剥離	外面　にぶい黄橙色 内面　灰白色 1㎜以下の砂多数含む 良	中期
167	弥生土器 甕	〃	口径　(14.6) 残高　5.3 底径　－	外面　表面剥離　スス付着 内面　表面剥離　ハケ？	外面　にぶい橙色 内面　灰白色 1㎜前後の砂多数含む 良	中期
168	弥生土器 甕	〃	口径　(17.0) 残高　2.8 底径　－	外面　表面剥離　スス付着 内面　表面剥離	外面　灰白色 内面　〃 1㎜前後の砂多数含む 良	中期
169	弥生土器 甕	〃	口径　－ 残高　5.5 底径　－ 頸径　(18.4)	外面　タタキ 内面　指オサエのちナデ	外面　浅黄橙色 内面　黄灰色 1㎜前後の砂多数含む 良	後期
170	弥生土器 甕	〃	口径　－ 残高　6.4 底径　－	外面　タタキ 内面　表面剥離	外面　にぶい橙色 内面　灰色 1㎜以下の砂多数含む 良	後期
171	弥生土器 壺	〃	口径　－ 残高　3.3 底径　(6.0)	外面　表面剥離 内面　表面剥離	外面　褐灰色 内面　〃 1㎜以下の砂多数含む 良	中期
172	弥生土器 壺	〃	口径　－ 残高　3.2 底径　(6.4)	外面　ヨコナデ 内面　ハケ	外面　灰白色 内面　黄灰色 密 良	中期
173	弥生土器 壺	〃	口径　－ 残高　5.4 底径　(7.6)	外面　表面剥離 内面　表面剥離	外面　にぶい橙色 内面　〃 密 良	中期
174	弥生土器 甕	〃	口径　－ 残高　2.2 底径　(5.4)	外面　タタキ 内面　ハケ	外面　にぶい黄橙色 内面　黄灰色 1㎜以下の砂多数含む 良	後期
175	弥生土器 甕	〃	口径　－ 残高　2.9 底径　(7.0)	外面　表面剥離 内面　表面剥離	外面　灰黄色 内面　にぶい黄橙色 密 良	中期
176	生駒西麓 弥生土器 甕	〃	口径　－ 残高　7.3 底径　(9.4)	外面　ケズリ　底部スス付着 内面　ハケ	外面　黄灰色 内面　にぶい黄橙色 密　角閃石含む 良	中期
177	弥生土器 甕	〃	口径　(12.8) 残高　1.4 底径　－	外面　表面剥離　スス付着 内面　表面剥離	外面　浅黄橙 内面　にぶい黄橙色 1㎜以下の砂多数含む 良	中期
178	生駒西麓 弥生土器 壺	〃	口径　－ 残高　3.3 底径　(3.4)	外面　表面剥離　スス付着 内面　表面剥離	外面　黒褐色 内面　灰黄褐色 角閃石、1㎜以下の砂多数含む 良	中期
179	管玉	遺構 No.13	全長　0.9 巾　0.5 孔径　(0.2)	外面　鉄分沈着 内面　鉄分沈着	外面　緑灰白色 内面　緑白色	両方向から穿孔
180	弥生石鏃	黒色土	残存長　4.3 巾　1.5 厚　0.6	外面 内面	外面 内面	

発掘調査抄録 その1

ふりがな	いずみおおつしまいぞうぶんかざいはっくつちょうさがいほう
書名	泉大津市埋蔵文化財発掘調査概報
副書名	
巻次	24
シリーズ名	泉大津市文化財調査報告
シリーズ番号	40
編著者名	虎間麻実
編集機関	泉大津市教育委員会
所在地	〒595－8686　大阪府泉大津市東雲町9番12号
発行年月日	西暦　2006年3月31日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
池上曽根（いけがみそね）	おおさかふいずみおおつし 大阪府泉大津市 とよなか 豊中894、895 調査番号2005-03	272060		34度 29分 55秒	135度 25分 44秒	20050524 ～ 20050613	230.4	分譲住宅宅地造成
	おおさかふいずみおおつし 大阪府泉大津市 そねちょう 曽根町2丁目12-5 調査番号2005-04	272060		34度 29分 6秒	135度 25分 39秒	20050530	1.8	木造2階建個人住宅建設に伴う浄化槽
	おおさかふいずみおおつし 大阪府泉大津市 ちはらちょう 千原町2丁目5-1、6-1、245-1、245-2、248-1、249、250、256-1、389-1、389-2 調査番号2005-10	272060		34度 30分 6秒	135度 25分 56秒	20051014	12.9	鉄骨平屋造店舗に伴う防火水槽
豊中（とよなか）	おおさかふいずみおおつし 大阪府泉大津市 きたとよなかちょう 北豊中町2丁目996-9の一部 調査番号2005-06	272060		34度 29分 33秒	135度 25分 43秒	20050801	3.2	分譲住宅宅地造成
	おおさかふいずみおおつし 大阪府泉大津市 ひがしとよなかちょう 東豊中町1丁目967-10 調査番号2005-12	272060		34度 29分 19秒	135度 25分 39秒	20051208 ～ 20051209	23.9	鉄骨2階建共同住宅
七ノ坪（ひちのつぼ）	おおさかふいずみおおつし 大阪府泉大津市 きたとよなかちょう 北豊中町2丁目517-1 調査番号2005-02	272060		34度 29分 43秒	135度 25分 39秒	20050523	7.5	分譲住宅宅地造成

所収遺跡名		種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
池上曽根（いけがみそね）	2005-03	集落跡	弥生	竪穴式住居	弥生土器　管玉	内環濠の南肩と外環濠
	2005-04		－	－	－	
	2005-10		－	－	－	
豊中（とよなか）	2005-06	－	－	－	－	
	2005-12	集落跡	古墳	柱穴	土師器　須恵器	
七ノ坪（ひちのつぼ）	2005-02	－	－	－	－	

発掘調査抄録 その2

ふりがな 所収遺跡	ふりがな	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
池浦（いけうら）	おおさかふいずみおおつし 大阪府泉大津市 寿町（ことぶきちょう）83-1 調査番号2005-07	272060		34度 29分 56秒	135度 25分 9秒	20050817	12.3	分譲住宅宅地造成
穴師（あなし）	おおさかふいずみおおつし 大阪府泉大津市 池浦町（いけうらちょう）5丁目441番1、8、11、15 調査番号2005-05	272060		34度 29分 40秒	135度 25分 20秒	20050617	13.6	分譲住宅宅地造成
虫取（むしとり）	おおさかふいずみおおつし 大阪府泉大津市 板原町（いたはらちょう）1丁目283の一部 調査番号2005－01	272060		34度 29分 21秒	135度 24分 47秒	20050518	11.7	分譲住宅宅地造成
	おおさかふいずみおおつし 大阪府泉大津市 板原町（いたはらちょう）3丁目240番1,241番 調査番号2005－08	272060		34度 29分 12秒	135度 24分 46秒	20050920	12.1	木造2階建長屋住宅
	おおさかふいずみおおつし 大阪府泉大津市 我孫子（あびこ）1丁目505－6 調査番号2005－11	272060		34度 29分 29秒	135度 25分 3秒	20051114	6.8	鉄骨3階建個人住宅
板原（いたはら）	おおさかふいずみおおつし 大阪府泉大津市 板原町（いたはらちょう）2丁目1009－4 調査番号2005－09	272060		34度 29分 7秒	135度 25分 6秒	20051012	1.2	鉄骨3階建個人住宅

所収遺跡名		種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
池浦（いけうら）	2005-07	集落跡	－	－	柱状片刃石斧	
穴師（あなし）	2005-05	－	－	－	－	
虫取（むしとり）	2005-01	－	－	－	－	
	2005-08	－	－	－	－	
	2005-11	－	－	－	－	
板原（いたはら）	2005-09	－	－	－	－	

泉大津市文化財調査報告40

泉大津市埋蔵文化財発掘調査概報24

２００６年３月

発　行　泉大津市教育委員会
編　集　生　涯　学　習　課
泉大津市東雲町９番12号

印　刷　和泉市池上町460番地の33
和泉出版印刷株式会社